

近畿コカ・コーラボトリンググループ  
2006  
5



2006

近畿コカ・コーラボトリンググループ  
CSRレポート



# 近畿コカ・コーラボトリンググループ CSRビジョン

私たち近畿コカ・コーラボトリンググループは、  
地域になくてはならない企業となること  
地域社会の一員として信頼される存在となること  
地域社会の発展と当社グループの発展が同時に実現されていること  
を目指します。



## エコラ

近畿コカ・コーラボトリングの環境報告書  
や京都工場見学のキャラクターのわたしが、  
CSRレポート2006をご案内します。

環境

地域社会

株主・投資家

社員

お客様

お取引先  
お得意様

## 編集方針

本報告書は近畿コカ・コーラボトリンググループのCSR活動の取り組み内容をわかりやすく開示し、ステークホルダー（利害関係者）の皆さまからご意見をいただき、持続可能な明日への活動につなげることを目的に発行しています。  
わかりやすさを重視したため、イラストや写真、図表データ等を取り入れ、ビジョン2006に添ってそれぞれのステークホルダーの皆さまへ向けたご報告という形式をとっております。  
本年はCSR本部が立ち上がって間もないため、環境的側面についてのご報告が主となっておりますが、徐々に社会的側面についてのご報告も充実させていきたいと考えています。

対象期間：2005年度（2005年1月～2005年12月）実績データは2005年度、活動内容の一部は2006年度も含まれます。

対象組織：原則的にグループ連結会社を対象です。（P50参照）

参考にしたガイドライン

「サステナビリティレポートガイドライン2002」（GRI）  
「環境報告書ガイドライン（2003年度版）」（環境省）

発行：2006年3月



32ページのJ-AGEEマークは、当該CSRレポートに記載された環境情報の信頼性に関し、日本環境情報審査協会の定めた環境報告書審査・登録マーク付与規準を満たしていることを示すものです。

## 目次

目次・編集方針	2
トップコミットメント・経営理念	3
明石工場薬品流出事故について	4

## 近畿コカ・コーラボトリンググループのCSR

地域に信頼される存在となるために	7
ハイライト	
1.CSRの基本は行動規範	9
2.本業を通じた社会貢献	11
3.廃棄物3R推進計画	15

## ステークホルダーとともに

お客様とともに	17
お取引先とともに	23
社員とともに	25
株主・投資家とともに	27
地域社会とともに	29

## 環境とともに

環境方針・eKO（環境マネジメントシステム）	33
空容器的3R推進	34
排出事業者としての3R推進	37
3R推進の基盤	38
将来世代の3R推進	40
水に関する取り組み	41
温室効果ガス削減中長期計画レビュー	42
環境負荷物質フロー	45
環境会計	47
環境情報算定基準	48
環境情報の第三者審査報告書	49

会社概要・グループ会社	50
-------------	----

# 2006

近畿コカ・コーラボトリンググループ  
CSRレポート

# 地域のお客様から「好きと言っていただけ」 企業グループを目指して



代表取締役  
社長執行役員

守都正和



## 地域と共に生きる 企業グループとして

近畿コカ・コーラボトリンググループは、「さわやか創造企業」を経営理念として掲げ、「1本1本の製品を通じて大阪・兵庫・京都のお客様にさわやかをお届けしたい」という思いで歩んでまいりました。

2004年に策定した3か年の中期経営計画では、「地域のお客様から好きと言っていただけ企業グループになりたい」という目標を掲げ、「お客様から見た企業ブランド価値向上」と「経営力の強化」を両輪とした戦略に基づいて活動してきました。

その一環として昨年7月にCSR本部を立ち上げ、CSR(Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)について取り組んでいくことを宣言しました。CSRは近江商人家訓の「売り手よし、買い手よし、社会よし」の「三方よし」の精神など、古くから日本の商売の原点として語り継がれていることであり、当社グループも創業以来45年間様々な取り組みを行なっております。こういった取り組みをもう一度、原点に戻って見直し、「地域との共生」を目指していくために再構築して取り組んでいきたいと考えております。

## みんなで作り上げた 行動規範をみんなで守ります

まずは足元を固めるために、経営理念やビジョンを具体的にどうすれば実現するのかを定めた「近畿コカ・コーラボトリンググループ行動規範」を策定しました。策定段階でグループ全従業員にアンケートを配り、彼らの声を反映させて第1版を作り上げました。

「もっといい会社にしていきたい」というすべての活動は現場でのひとりひとりの「気づき」から生まれていきます。その「気づき」の声を生かす仕組みをこの行動規範と重ね合わせて作りあげました。ひとりひとりがこの行動規範を実践することで、自らもグループ全体も持続的成長を目指します。

また、本業を通じた地域社会への取り組みを開始しました。まだまだ活動は始まったばかりですが、一歩一歩前進していきたいと考えております。



## 明石工場の事故を 振り返って

昨年9月、明石工場での薬品流出事故により、河川を汚してしまいました。あらためて、皆さまに深くお詫び申し上げます。現在危機管理体制の再構築など再発防止の取り組みにグループ一丸となって活動しております。また、壊してしまった環境を原状回復だけでなく、これまで以上の状態にするために努力していく所存です。

## 皆さまからのご意見をお待ちしています

このCSRレポートを、皆さまとのコミュニケーションの機会として、これからも発展させていきたいと考えております。どうぞ皆さまからの忌憚のないご意見をお聞かせいただきますようお願い申し上げます。

## 経営理念

### 『さわやか創造企業』

近畿コカ・コーラボトリンググループは、  
人々のうるおいと豊かさにつながる機会を創造します。

人々の期待感や先進感にこたえます。

人々の健康な生活に貢献します。

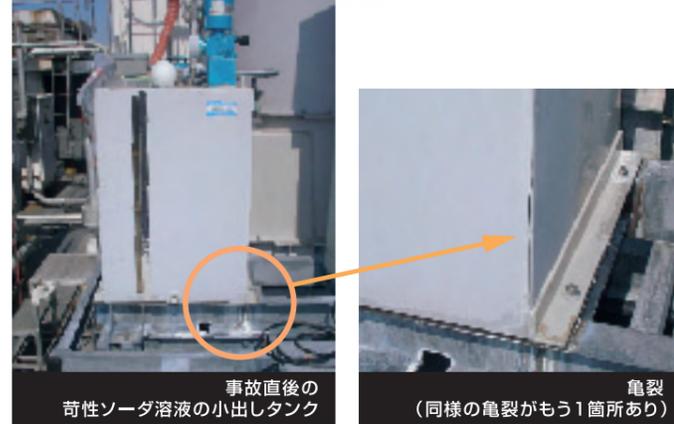
# 明石工場薬品流出事故について

2005年9月18日、近畿コカ・コーラプロダクツ明石工場（兵庫県明石市大久保町）より、苛性ソーダ溶液が工場に隣接する赤根川へ流出する事故が発生しました。事故の再発防止のための取り組みと、地域の皆さまからの信頼を取り戻すための取り組みについて報告させていただきます。

## ■ ■ ■ 事故の概要と再発防止策

今回の事故は、工場の屋上に設置してある、脱臭装置に付帯する苛性ソーダ溶液の小出しタンク（容量：300リットル、塩化ビニル製）の2箇所にて亀裂が発生、この箇所より苛性ソーダ溶液が漏洩し、雨水経路を経由して赤根川へ流出したものです。

破損発生の原因調査はまだ完全には終了しておりませんが（2006年2月時点）、当社では事故の発生に至る問題点を調査・分析し、以下を含む再発防止策を講じています。



**問題点①** 当該小出しタンクは破損による大量の漏れを想定していなかったため、漏洩を防ぐ設備、管理体制になっていなかった。

## 設備の改善（実施済） ■ ■ ■

- 1 小出しタンクに防液堤および飛散防止板の設置
- 2 防液堤からの廃液を中和槽へつながるよう配管を接続
- 3 小出しタンクの材質を、塩化ビニル製からステンレス製に変更

## 漏洩監視の強化（実施済） ■ ■ ■

- 1 小出しタンクからの苛性ソーダ供給要求信号を監視し、異常発生時には遮断弁を閉止し、発報する制御に変更
- 2 工場内の複数の小出しタンクに送液している供給ポンプの運転時間を監視し、異常発生時にはポンプを停止させ、発報する制御に変更

また、明石工場、京都工場、焙煎工場の工場設備を総点検し、問題がないことを確認しました。



**問題点②** 行政機関への通報が遅れた。

- 1 緊急対策マニュアルの通報先、連絡先を再整備
- 2 全員を対象に、緊急対策マニュアル、漏洩時の処置などの勉強会を実施
- 3 グループ全体でのリスク管理体制の再構築（「CSRリスク管理委員会」については、P8をご覧ください。）

## ■ ■ ■ 環境影響調査

（株）シャトー海洋調査に委託した河川調査および海域調査（2005年10～11月にかけて実施）の結果、事故の影響があったことを示す結果は見受けられませんでした。

## ■ ■ ■ 事故後の取り組み～地域への取り組み

失った信頼を取り戻し、今後も地域の一員としてともに歩ませていただくために、地域の皆さまからいただきましたご要望にお応えできる取り組みを実施いたします。

- 1 「江井ヶ島ため池協議会」への参画や、赤根川の美化運動に取り組みます。
- 2 専門家のアドバイスをいただきながら、赤根川への稚魚の放流を計画しています。
- 3 地域の皆さまによる地域でのイベント等の活動へ積極的に参加させていただきます。
- 4 赤根川拡幅計画促進のため、赤根川に隣接する当社所有地を兵庫県へ寄贈します。

「明石工場苛性ソーダ流出事故」に関する問い合わせ先  
 近畿コカ・コーラボトリング(株) 広報部 ☎06-6330-2191  
 情報 <http://www.kinki.ccbc.co.jp/news/akashireport/index.html>



# 近畿コカ・コーラ ボトリンググループ のCSR



「地域との共生」  
 地域に根ざし、  
 育まれてきた企業グループとして、  
 地域の皆さまと共に  
 持続的に成長していきたい・・・  
 そんな思いを形にした活動を、  
 これからも続けていきます。

# 地域に信頼される存在となるために

## ビジョン2006

私たち近畿コカ・コーラボトリンググループは、1本1本の製品を業界No.1のオペレーションで提供し、より多くのお客様にさわやかなひとときをお届けします。お得意様を、お客様満足を実現するパートナーとして大切に、共に成長します。

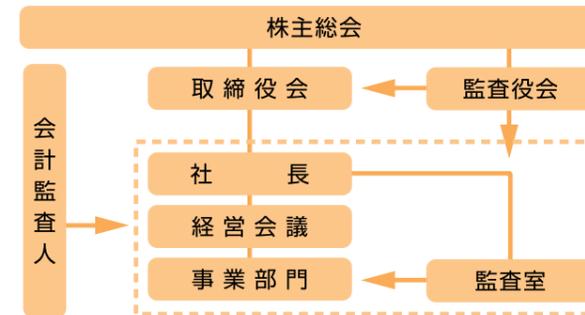
ひとりひとりがお客様満足を常に追求し、やりがいと誇りをもって自己の役割と目標を完遂します。日々の健全な企業活動を通じ、毎年、増益を達成します。

## CSRビジョン

私たち近畿コカ・コーラボトリンググループは、地域になくなくてはならない企業となること、地域社会の一員として信頼される存在となること、地域社会の発展と当社グループの発展が同時に実現されていることを目指します。



## コーポレートガバナンス

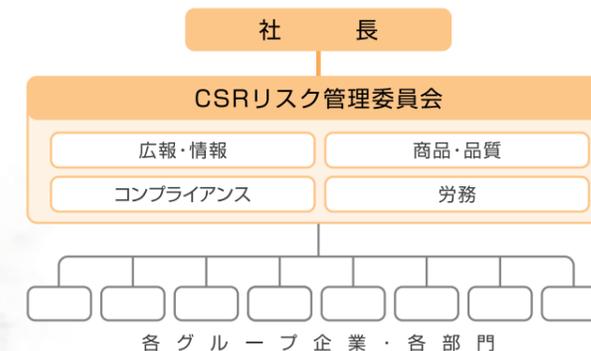


近畿コカ・コーラボトリング株式会社は、経営の透明性と効率性の向上を通じて、全てのステークホルダーにとっての企業価値の最大化を図るため、コーポレートガバナンス体制を右記のとおり変更します。(06年4月より)

- 変更ポイント**
- ◎取締役会のスリム化 (15名→6名)
  - ◎執行役員制度の導入
  - ◎各会議体の見直し
  - ◎監査機能の強化

## リスクマネジメント体制

当社グループはリスクの顕在化を未然に防止し、またリスクが顕在化し危機に転じた場合に社会及び経営への影響を最小限に留める体制を2005年秋に構築しました。グループ共通の「リスク管理規定」を制定すると共に、リスク管理活動をグループ全体で統括する組織として「CSRリスク管理委員会」を設置しました。CSRリスク管理委員会には、4つの「ミッショングループ」を設置し、専門的見地を踏まえグループ横断的なリスク課題解決を図り、グループ全体でリスク発生防止に努めます。



## 個人情報保護法への対応

当社グループではお客様やお得意様の個人情報の重要性を認識し、平成17年4月に完全施行された個人情報保護法の遵守および個人情報の適切な取り扱いを行うため、プライバシーポリシー・個人情報保護規定を策定するとともに、個人情報保護委員会を設置し、従業員教育やITセキュリティの強化など個人情報の保護にグループを挙げて取り組んできました。また、個人情報に関する皆さまからのお問合せにお応えするため、専用のフリーダイヤルも設けています。

**個人情報受付窓口**  
 フリーダイヤル ☎ 0120-925-986  
 (8:45~17:30/土・日・祝祭日および夏季休暇・年末年始を除く)  
 当社プライバシーポリシーは当社ホームページでご覧いただけます。  
 情報 <http://www.kinki.ccbc.co.jp/policy/privacy.html>

「地域との共生」というCSRビジョンには、地域の一員として、地域の皆さまと共に、持続的に成長していきたいという思いが込められています。ビジョン2006と合わせてお客様、お得意様や取引先の皆さま、社員、株主・投資家の皆さまというステークホルダーへ向けた「ありがたい姿」として実現を目指して活動していきます。当社グループはCSRの取り組みとして6つの重点領域(お客様満足、品質保証、環境保全、従業員満足、リスク管理、コンプライアンス)を設定しました。2005年はまず活動のベースとなる①行動規範の策定、②リスク管理態勢の構築に加えて、地域との共生を具現化した③本業を通じた地域社会貢献活動の提案という方針で取り組みました。2006年は第2ステップとして①行動規範の浸透、②本業を通じた地域社会貢献活動の促進③3R推進計画の推進など、グループ社員ひとりひとりへCSRの取り組みの浸透を図ります。

近畿コカ・コーラボトリング(株)  
 地域共生推進部 兼 お客様満足推進部  
 部長 川口 敏郎





# CSRの基本は行動規範

お客様、お取引先、社員、地域社会とともに……みんなで作り上げ、みんなで守っていきます。

経営理念、ビジョン2006を実現するための具体的な行動の基準となる

「近畿コカ・コーラボトリンググループ行動規範第1版」を2006年3月に策定しました。

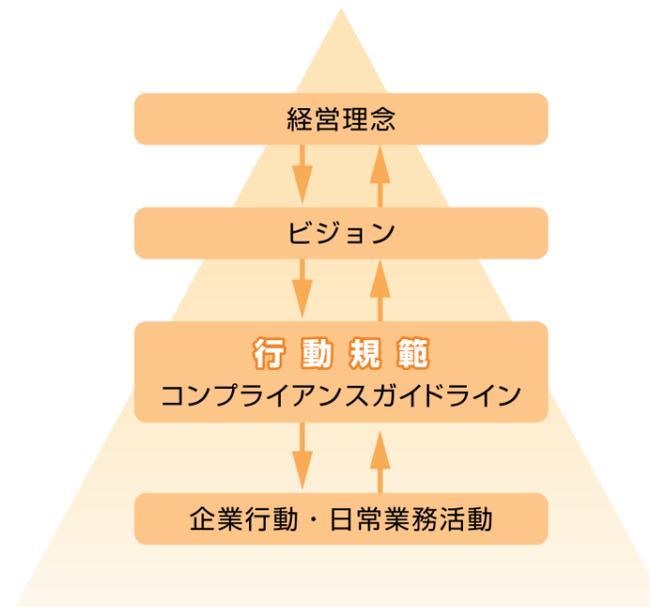
この「行動規範第1版」は2005年11月に策定した「行動規範第0版」をもとに

グループ約4,600人にアンケートを配布し、回答のあった約3,600名の声を生かして策定しました。

ひとりひとりの行動と意見が近畿コカ・コーラボトリンググループを良くしていく仕組みを作っていきます。



## ■ 行動規範の位置付け

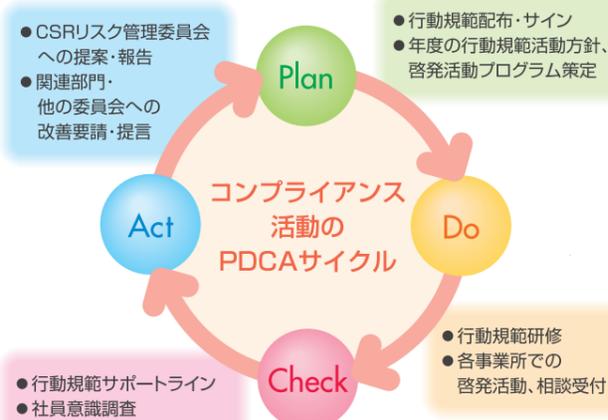


行動規範は経営理念、ビジョン2006を実現するために「何をすべきか」「何をしてはいけないのか」を具体的に示したものです。ビジョンのステークホルダーである「お客様」「お取引先」「社員」「地域社会」へ向けてどのような行動をとるべきかを本編とQ&A(事例集)に分けて記載しています。全グループの役員・社員にこの内容をファイル形式にして配布し、教育・啓発により周知徹底を行っていきます。



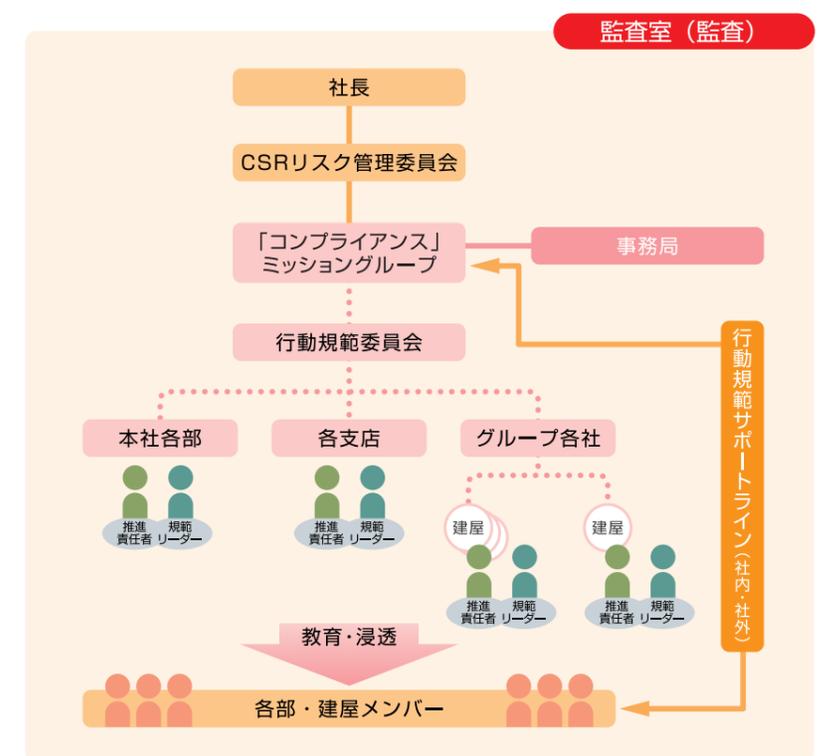
## ■ コンプライアンスのPDCAサイクル

各部門や建屋単位で日常の相談と啓発活動を担当する「規範リーダー」を設け、所属長である推進責任者とともPDCAサイクルをまわしていきます。規範リーダーが出席する「行動規範委員会」は年1回開催し、活動プログラムの提供や事例共有などでサポートする体制をとっています。



## ■ 行動規範浸透体制

みんなの声で会社を変えていく仕組みとするために、行動規範委員会は社長直轄のCSRリスク管理委員会に通じる組織としました。社員からの報告・通報は行動規範を実践し、また法令を遵守するための行為であり、事業活動や経営を改善していく機会となります。こういった事業活動や経営の改善となった事例は社員へフィードバックし、経営の透明性の向上を図ります。



## ■ 行動規範サポートライン

従来の「コンプライアンスサポートライン」を「行動規範サポートライン」に変更し、行動規範と一体型の内部通報・相談の仕組みとしました。「行動規範サポートライン」は行動規範に則って業務を遂行する際に判断に迷った場合や、違反の疑いのある行為について職制を通じて報告できない場合、あるいは法令に照らして疑問が生じた場合に報告・相談を受け付ける制度で、当社グループすべての社員を対象としています。

当社グループでは通報を理由に通報者が不利益な取り扱いを受けることは一切禁止しています。また通報者が特定されないよう情報の取り扱いには細心の注意を払っています。



## 本業を通じた社会貢献①

「近畿コカ・コーラボトリンググループとして、本業を通じて地域のお客様へできることはないか？」  
そう問いかけた結果、2府1県に約10万台ある自動販売機や50超の営業拠点を通じた様々な活動が生まれました。

### 災害時における飲料の提供協力に関する協定の締結

大規模災害時における当社物流拠点在庫の開放、および災害対応型自動販売機内の在庫の開放により飲料を無料提供します。



### ■ 当社物流拠点在庫の開放

東南海、南海地震などの大規模災害の発生が懸念される中で、各行政でも飲料水、食糧、生活必需品の備蓄が進められていますが、備蓄のための保管場所などの費用が発生します。  
そこで、大規模災害時に指定した当社の物流拠点在庫を開放することにより、万一の折、迅速・的確な応急救助の一助となると考えました。  
当社としても地域に被害をもたらす災害は起こってほしくはありませんが、万一の備えとして、飲料業界初となる協定を締結することにしました。

#### これまでの経緯



### ■ 災害対応型自動販売機内の飲料無償提供

大規模災害時、避難所や公共施設などに設置された災害対応型自動販売機内の在庫を、遠隔操作にて「無料提供」します。2006年2月現在、摂津市に3台、泉大津市に3台設置しており、2006年度中に200台の設置を目標としています。

#### 災害対応型自動販売機の特徴

ポケット通信ネットワークを使い、LEDメッセージボードへのメッセージの配信、ならびにフリードリンク（無償提供）の操作が可能です。

#### ① LEDメッセージボード

・通常時は地域の皆さまへの地域情報やフラッシュニュースなどの情報提供を行います。

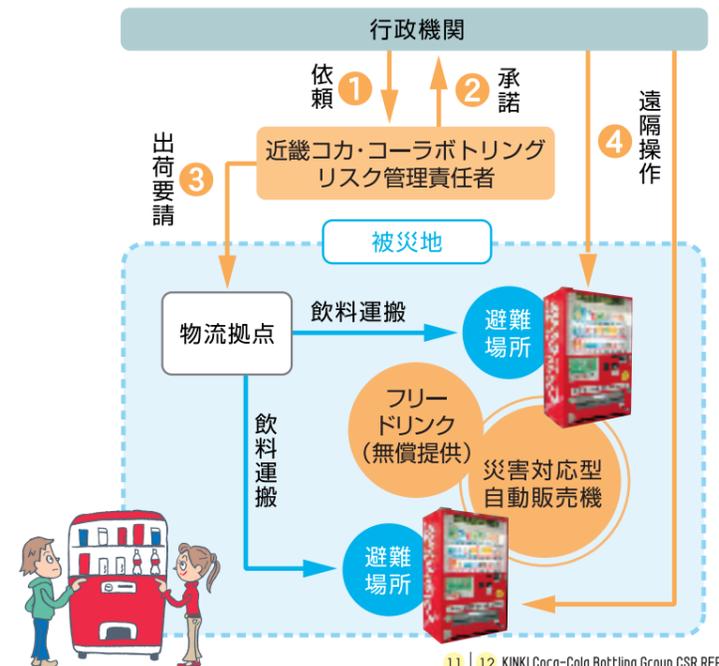


・緊急時には「災害情報」などのメッセージをリアルタイムに提供することができます。

#### ② フリードリンク（無償提供）

・遠隔操作による「無償提供」の設定が可能です。

### ■ 災害時における飲料の提供フロー図





# Highlight 2

## 本業を通じた社会貢献②

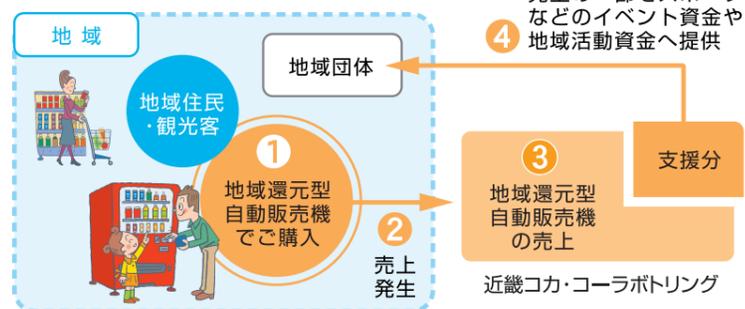
地域社会の課題を本業を通じて解決することで、地域社会と当社グループの持続的成長を目指します。まだまだ、活動は始まったばかりです。これからも近畿コカ・コーラボトリンググループは「地域と共に生きる」活動を本業を通じて行っていきます。



### ■ 地域還元型自動販売機

自動販売機の売上金の一部を地域の活動資金やイベント資金とする「地域還元型自動販売機」を展開していきます。

#### ■ 地域還元型自動販売機のしくみ



2005年12月に地域還元型自動販売機の1号機である障がい者スポーツ支援自動販売機が兵庫県庁舎に3台設置されました。これは、2006年10月に兵庫県で開催される第6回障がい者スポーツ大会「のじぎく兵庫大会」に出場する兵庫県選手団を支援しています。また、この自動販売機はユニバーサルデザイン機を採用しており人に優しい設計となっています。



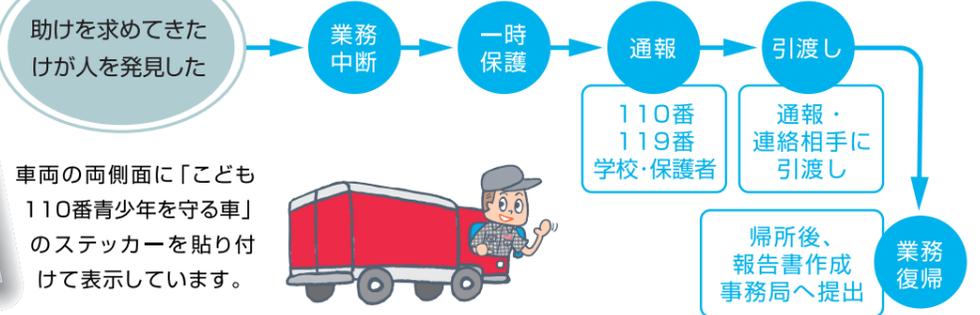
■ 障がい者スポーツ支援自動販売機

### ■ 神戸市での「こども110番 青少年を守る車」への協力

近年、全国的に子どもが巻き込まれる事件が多発しており、子どもの安全を守り、安心して育てることのできる地域環境づくりが課題となっています。このような状況の中、地域では防犯パトロール等の自主防犯活動や「こども110番青少年を守る店・守る家」、そして「こども110番青少年を守る車」へと活動範囲は拡大しています。



そこで、コカ・コーラの車両は街中でも目立つ存在であり、かつお子様を含めた地域の皆様からの認知度も高いという利点を最大限に活かし、本業を通じた地域社会貢献につなげたいという想いで、神戸市での「こども110番青少年を守る車」に約270台の車両が参加しています。今後とも神戸市内を走行する「コカ・コーラカラーの車両270台」は地域の安全・安心を守る車として、子どもが安心して育つことのできる環境づくりに貢献していきます。

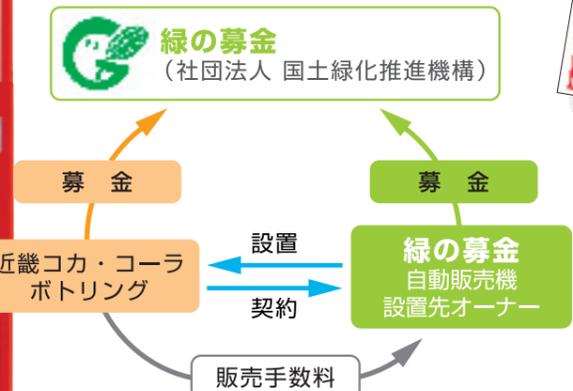


車両の両側面に「こども110番青少年を守る車」のステッカーを貼り付けて表示しています。



自動販売機の売上金の一部が社団法人国土緑化推進機構を通じて国内外の森林づくりへ寄付されます。こういった環境保護を目的とした自動販売機も順次展開していきます。

#### 「緑の募金」自動販売機のしくみ



### ■ U-CITY構想『ユビキタス街角見守り自動販売機』



現在、大阪府・大阪市と立命館大学、近畿コカ・コーラボトリングやその他の在阪企業で、産官学連携プロジェクトとしてU-CITY構想『ユビキタス街角見守り自動販売機』が進められています。ユビキタス街角見守り自動販売機は、防犯機能と通信機能を備えたBOXを自動販売機上部に取り付け、防犯用ICタグを携帯した子どもたちをセンサーで見守るシステムです。本年2月から大阪市中央区で実証実験をスタートし、今後の展開が期待されています。

大阪府データセンター

2006年2~3月 実証実験実施!



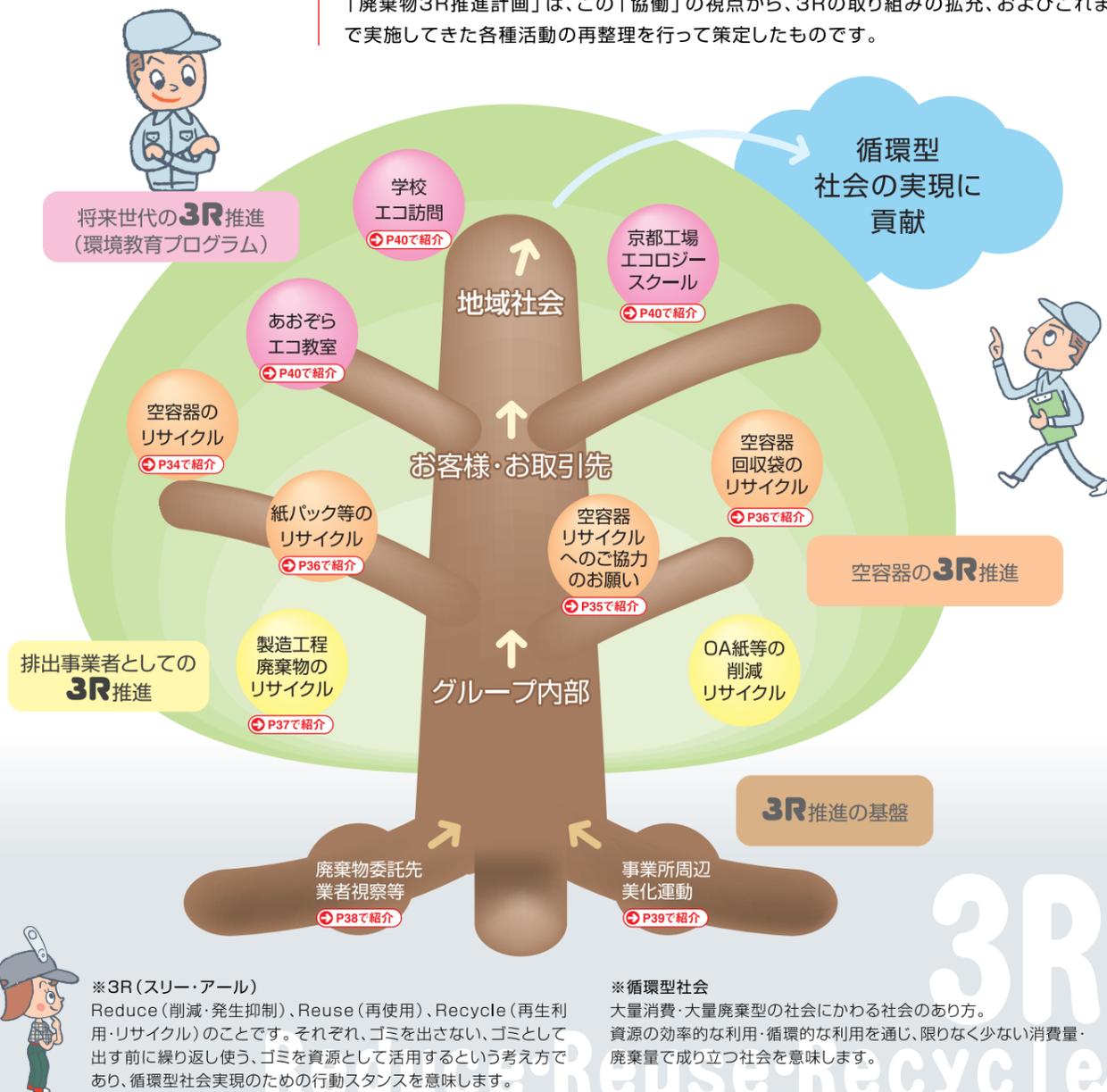
# Highlight 3

## 廃棄物3R推進計画

「協働」・・・同じ目的のためにみんなで取り組むこと。  
私たちの3R推進のキーワードです。

3R<sup>※</sup>を通じた循環型社会<sup>※</sup>の形成。  
これは、当社グループだけの努力では  
到底はたせないものです。

社会を循環型にシフトさせるために当社グループができることは、何でしょうか。事業活動に伴って発生する廃棄物について3Rに努め、排出事業者としての責任を確実に果たすだけでは十分でないと考えます。私たちが着目したのは、企業の枠をこえて、お客様・お取引先の皆さま、そして地域社会の皆さまに広く働きかけ、ともに力を合わせて3Rに取り組むという「協働」の視点です。  
「廃棄物3R推進計画」は、この「協働」の視点から、3Rの取り組みの拡充、およびこれまで実施してきた各種活動の再整理を行って策定したものです。



### 廃棄物3R

2006年1月、当年策定した「廃棄物3R推進計画」について、社外の方との意見交換会を実施しました。前年の意見交換会にも参加頂いた2名の方から引き続きご協力をあおぎ、策定後1年が経過した「温室効果ガス削減中長期計画」やステークホルダーコミュニケーションのあり方などについても話し合うことができました。ここではその要旨を紹介します。

#### 地域の方々の参加を促す 計画内容を評価します

前年の意見交換会の際にクールビズの採用を提案させていただきました。クールビズのCO<sub>2</sub>削減量は微々たるものかもしれませんが、しかし、全従業員が参加できるうえ、その家族や友人にまで温暖化防止を意識させるという啓発効果が期待できることから、自治体としても推進している施策です。啓発活動の重要性は廃棄物問題も同様です。その意味において、今回の計画が、学校エコ訪問や、空容器回収ボックスに関する分別のお願いなど、地域の方々との「協働」をキーワードにされていることがいいですね。このようなアプローチが、今後の企業の取り組みのスタンダードとなっていくことを願っています。



摂津市役所  
池上 敦実様

「廃棄物3R推進計画」の合言葉は「協働」です。私も、従来から製造工程における100%に近い再資源化率や空容器の回収・リサイクル活動などを継続してきましたが、一方で、社外に対して積極的に働きかけなければ「循環型社会」へのシフトに貢献したことはないという思いも抱いてきました。本日、従来の社内的な取り組みを強化するとともに、啓発を軸とする新規の企画を立ち上げた今回の計画を評価して頂き、うれしく感じるとともに、前年度の「温室効果ガス削減中長期計画」と同様、社会に対する誓約を行うことに身が引き締まる思いも抱いています。PDCAサイクルを確実に機能させ、計画目標の達成に全力で取り組む所存です。



近畿コカ・コーラボトリング(株)  
広報部 環境室 室長  
野田 徳守

社会とのかかわりの中で  
PDCAサイクルを回していきます



#### これからも社外との 意見交換を大事に してほしい

ATCグリーンエコプラザ  
北澤 弘行様

今回の「廃棄物3R推進計画」は、啓発を軸として、社会を循環型に導くためにライフスタイルの転換を促す内容である点がポイントかと思えます。これに、空容器回収のためのデポジット制の導入などの経済的手法を導入されればさらに良いものになると感じました。前年の意見交換会における私の発言が本計画策定の一因となっていると聞き、光栄に感じます。社外との意見交換をCSR・環境経営の意思決定に反映させようとする姿勢を、今後も是非とも継続していただきたいと思っています。

近畿コカ・コーラボトリング(株)  
広報部 環境室  
三原 晋平



正直に申しまして、1年ほど前に環境室に配属されるまであまり環境問題を意識したことはありませんでした。環境室での日々の業務を通じて知識が蓄積するにつれ、環境問題を「知ること」の、そしてそれ以上に周りの人々に「知らせること」の大切さを感じるようになりました。今の私には伝えたいことがたくさんあります。将来社会の環境保全を担う子どもたちを対象として企画した「学校エコ訪問」や「あおぞらエコ教室」といった環境教育プログラムを通じて、若い私なりの視点からメッセージを伝えることにより、将来の環境保全に少しでもつながることを願っています。

将来を担う子どもたちに  
伝えたいことがたくさんあります

### 意見交換会



# ステークホルダー とともに



私たちのビジョン2006は  
「お客様」「お客様やお取引先の皆さま」  
「社員」「株主・投資家の皆さま」  
へ向けたありがたい姿です。  
ここに、「地域社会」という  
もう一つ重要なステークホルダーを  
CSRビジョンという形で追加しました。  
これからもステークホルダーの  
皆さまとともに歩んでいきます。

CSR Report

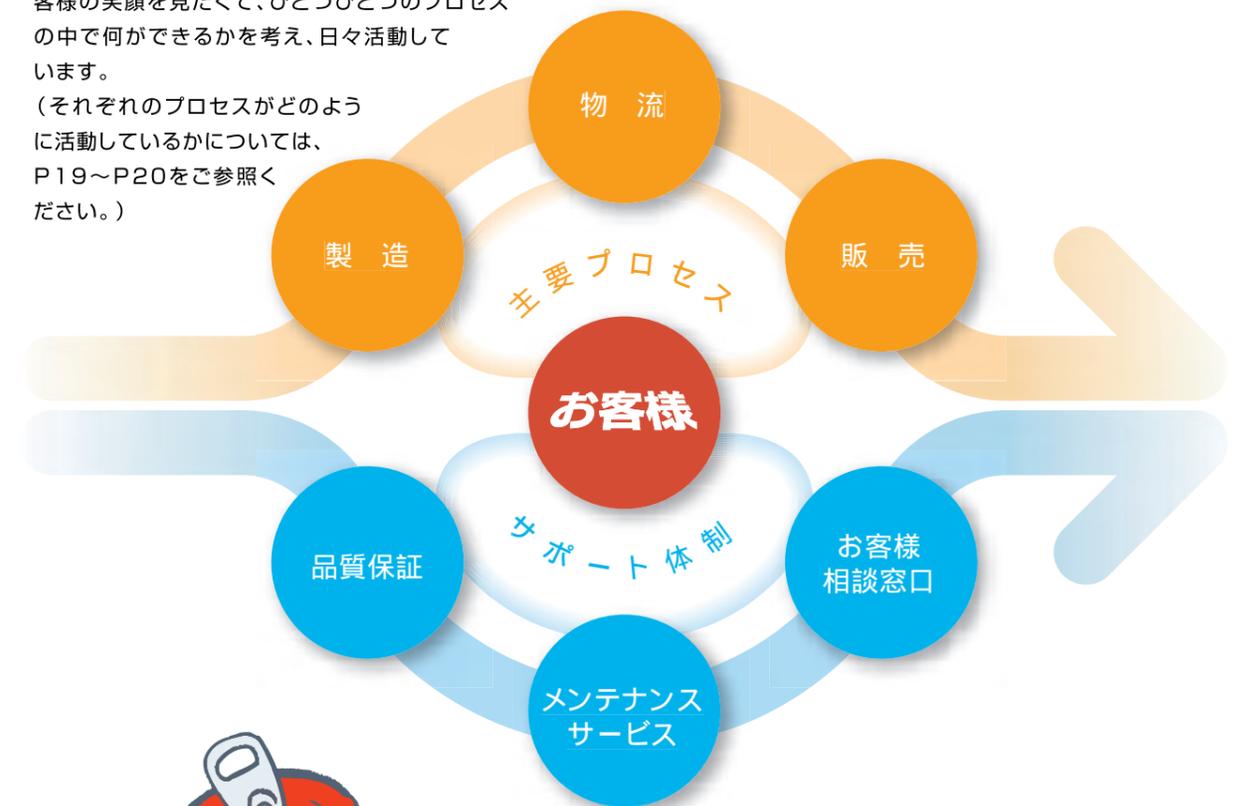
# お客様とともに

1本1本の製品を業界No.1のオペレーションで提供し、  
より多くのお客様にさわやかなひとときをお届けします。



## 製造から物流、販売まで、 そしてお客様へ

私たち近畿コカ・コーラボトリンググループではより新鮮で安心な製品をお客様の手にお届けするため、全てのプロセスにおいて業界No.1のオペレーションを目指しています。そして、1本1本の商品を飲んでいただいたお客様の笑顔を見たくて、ひとつひとつのプロセスの中で何ができるかを考え、日々活動しています。  
(それぞれのプロセスがどのように活動しているかについては、P19~P20をご参照ください。)



## お客様へ変わらないおいしさをお届けするために

あらゆるシーンにおいて、お客様においしい商品をお飲みいただくために、品質保証、メンテナンスサービス、お客様相談窓口でのサポート体制を充実させています。お客様にはいつもさわやかなひとときをお届けすることを心がけて活動していますが、万一、お客様へご迷惑をおかけした場合にはすぐにご対応できるようにしています。  
(それぞれのサポート部門がどのように活動しているかについては、P21~P22をご参照ください。)

製造

■ 製造での取り組み

安全な製品をお届けするために、生産工程のすべてにわたって厳しい品質管理を行っています。原材料のチェックや製品の微生物検査、保存検査、さらに包装に至るまで厳しいチェックを行っています。  
工場では国際規格ISO9001の認証も取得しており、規格に則ったよい製品づくりを実践しています。



物流

■ 物流での取り組み

日付管理の徹底はもちろんのこと、常にソフトハンドリングを心がけて製品を供給しています。輸配送では、環境に配慮したエコドライブを実施することが、お客様にもご迷惑をおかけしないことと考え、全員で取り組んでいます。また、荷崩れ防止のストレッチフィルムの消費を減らすべく再使用可能な専用のバンドを使用することによって環境負荷を軽減しています。



販売

■ 販売での取り組み

ファミリーレストランなどではディスペンサーで製品を提供しています。ディスペンサーではその場で原液(シロップ)に水や炭酸ガスを調合することで製品ができあがるため、特に機器の衛生管理には細心の注意を払っています。具体的には営業担当者と物流担当者がお店を訪問する都度、1軒1軒時間をかけて下記のような衛生管理作業をして、お客様にフレッシュでおいしい製品を全てのお店で飲んでいただけるよう活動しています。

■ 主な内容

- 賞味期限の確認
- 飲み物出口(ノズル)のブラッシングとアルコール塗布
- 冷えた商品が出されているかの温度確認
- 炭酸ガスの効き等を確認するための味覚チェック
- 機械の作動確認と取扱説明 等



スーパーマーケット、コンビニエンスストア、ドラッグストアなどでは、缶やPETボトルなどの製品を提供しています。缶やPETボトルでは常に新しい製品をお届けできるように、日々フレッシュネスに注意を払っています。また、特に新製品の発売時にはお客様に分かりやすい情報提供を心がけています。またその製品の特性に応じた適正な温度で提供し、より多くのお客様の手に届くよう活動しています。

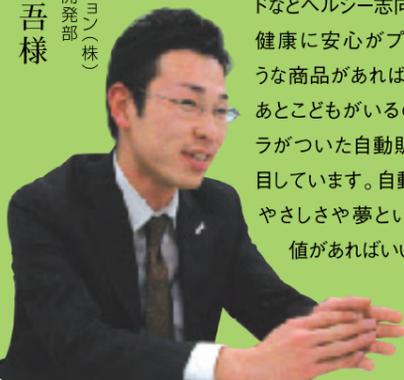


自動販売機オペレーションでは製品のフレッシュネスを第一に考えています。缶やPETボトルの自動販売機では、販売担当者が訪問毎に売上データを確認し、コールドでは4週間、ホットでは2週間で販売できるよう製品の在庫管理を実施しています。また販売温度の確認や、製品取り出し口の清掃などの活動を実施しています。  
カップ自動販売機では、同様に売上データの確認により、原材料を2週間で販売する在庫管理を実施しています。特に、カップ自動販売機ではその中で原材料を混ぜ合わせるため小さな工場と位置付けており、規格に合った製品が販売されているかの確認や、原材料抽出ラインなどの清掃、点検、販売温度確認、防虫対策、水質確認などを実施し、衛生管理には特に注意を払っています。お客様がお飲みいただいた後の空容器の回収はもちろんのこと、周囲の清掃も心がけており、お客様が気持ちよく購入していただける環境作りに努めています。



やさしさや夢をもった自動販売機を

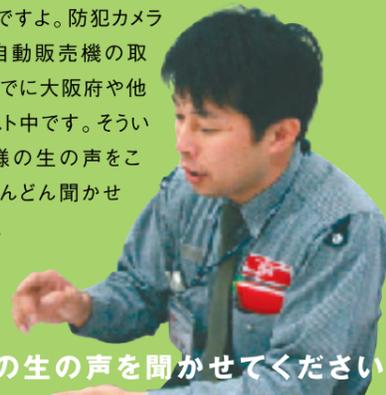
東建コーポレーション(株)  
豊中支店/営業開発部  
川那辺 伸吾様



田中さんとは一度こどもの話で盛り上がってから、いろいろ話をするようになりました。いつも飲むのは水やミニッツメイドなどヘルシー志向のものです。健康に安心がプラスされたような商品があればいいですね。あとこどもがいるので防犯カメラがついた自動販売機にも注目しています。自動販売機にもやさしさや夢といった付加価値があればいいと思います。

ステークホルダーとの

いつもありがとうございます。今年には朝に必要な機能がプラスされたミニッツメイドの「健康果汁シリーズ」が発売されます。新しい「大豆ノススメ」もおススメですよ。防犯カメラのついた自動販売機の取り組みはすでに大阪府や他企業とテスト中です。そういったお客様の生の声をこれからもどんどん聞かせてください。



お客様の生の声を聞かせてください

フルサービスマネジメント営業部  
千里丘支店  
エリアマネージャー  
田中 徹

品質保証

■ 品質保証の取り組み

毎日たくさんの製品が生まれ、フレッシュで安全な製品をお客様にお届けしています。安全な製品をお届けするために欠かせないのが原料受け入れから製造、物流、そしてお客様の手に届くまで、すべてのプロセスでの品質管理活動です。この活動を品質保証部が一貫して支援しています。

TCCQS※というコカ・コーラ独自のマネジメントシステムを導入し、品質保証のレベル向上を図っています。また、「品質マニュアル」で製品の取り扱い方法をルール化して、各部門で品質管理がきちんと行なわれているかをチェックしています。フレッシュでおいしい製品がお客様に提供できているのかを確認するために店頭や自動販売機、ディスペンサー（飲料調合機）の点検を行っています。

また、お客様のご要望に応じて、ご指摘いただいた製品を検査してご報告し、お客様が安心してお飲みいただけるようサポートしています。



※TCCQS (The Coca-Cola Quality System)

コカ・コーラ独自の品質・環境・労働安全衛生のマネジメントシステム。品質ではISO9001とHACCP、環境ではISO14001、労働安全衛生ではOHSAS18001に準じた形をとっています。

メンテナンスサービス

■ メンテナンスサービスの取り組み

メンテナンス部門では、365日24時間体制で自動販売機の故障修理受付を行っています。故障修理は迅速で正確に対応し、また計画的な点検で故障を未然に防ぐことにより、お客様に滞りなく商品を提供できるよう活動しています。

近年女性専用マーケットでの自動販売機設置も増えてきています。そういったマーケットでの故障は女性担当者によって営業時間内に対応することで、お客様をお待たせする時間を最小限にとどめるような体制をとっています。

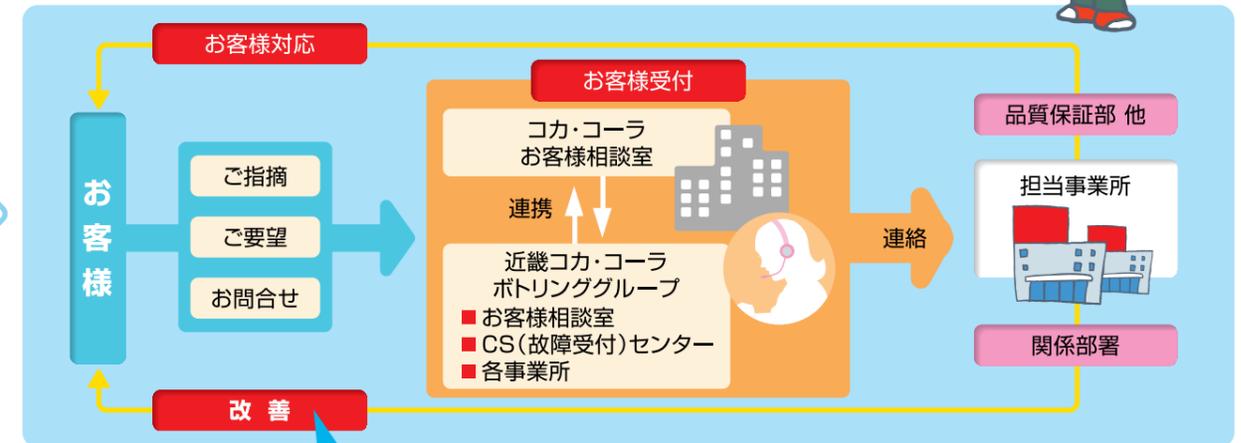


お客様相談窓口

■ お客様窓口担当の取り組み

あらゆるお客様からのご指摘やご要望、お問合せに対し、グループ全体で迅速かつ確実に対応できる体制を構築しています。また、お客様の声は貴重なご意見として、単にお応えするという考えではなく、コミュニケーションの最良の機会として積極的な対応を心掛けています。更に、お客様の声は生きたマーケティング情報として経営に反映し、良い商品・サービスの向上につなげています。

■ お客様対応フロー図



お客様の声をより良い商品づくりに活かしています

お客様の声

たとえば...  
350ml缶のリングプルで唇を切った。

問題点

リングプル製造時にできる切り離し部分が飲み口側にあり、少し引っかかりがある。ちょうど唇が接触した時に、唇を切ることがある。

改善点

切り離し部分を飲み口側から横側に変更したリングプルの使用を推進しています。



コカ・コーラファミリーホットライン

グループ社員とその家族が、コカ・コーラ社製品を販売しているあらゆる売り場でおお客様にご迷惑をおかけしている状況を発見した時に、連絡を入れる社員専用フリーダイヤルを設けています。右図のカードを配布して活動しており、昨年は約1,000件の情報提供がありました。その情報は売り場の状況改善に役立てています。



# お取引先とともに

お客様を、お客様満足を実現する  
パートナーとして大切に、共に成長します。



## ■ お客様とのパートナーシップ

お客様へ製品をお届けするためには、製品を陳列していただいているお店や、自動販売機を設置していただいている企業などのお客様のご協力が必要です。私たちはお客様をお客様満足を実現するためのパートナーと位置付け、それぞれのお客様のお困りごとはもちろんのこと、お客様をご利用いただくお客様の様々なニーズや価値観への対応をお得意様と共に考え、私たちのできる範囲で精一杯解決を図っていきます。

それがお客様満足の実現と、お得意様と私たちが共に成長していくための一番の近道だと考えているからです。



## ■ 自動販売機のご提案を通じて



自動販売機を通じて、環境対策や空きスペースのご活用、熱中症対策など様々なご提案を実施しています。ご提案と共にお客様への課題解決のお手伝いをさせていただきたいと考えています。

自動販売機を設置していただいているお客様へはお客様専用のサイト「e-fullfull NEWS(イー・フルフルニュース)」を展開しています。アドレスを登録していただいたお客様にメールマガジンを配信し、毎月コカ・コーラ社の新製品や自動販売機のご紹介はもちろん、お客様の職場でのワンシーンやコカ・コーラの歴史など幅広い情報をお届けしています。毎月の「トピックス」では環境問題や地域貢献についてのコカ・コーラグループの取り組みや分煙対策の事例などを紹介しています。また、「リクエストメール」では、お客様からの様々なご意見やリクエストが、ボタンをクリックするだけで当社に届く仕組みになっており、日々の営業活動に活用させていただいています。



例えば「トピックスで取り上げられていた分煙対策について、詳しく話が聞きたいのですが・・・」といったご要望にもエリアの営業担当者が対応させていただきます。

## ■ お得意様とのコラボレーション

お得意様のご期待にそえるような様々なプロモーションも実施しています。

例えば地元のスーパー銭湯の入浴券が当たるプロモーションを、23店舗のスーパーなどで実施しました。プロモーションの景品であるスーパー銭湯のお得意様では、お客様が増えたと喜んでいただけましたし、プロモーションを実施したスーパーでは地元密着という話題性や売上が上がったことで喜んでいただけました。もちろん、スーパーのお客様にも身近な行楽スポットのチケットということで大変喜んでいただけただけのことではありません。



今後も、こういったお得意様とコラボレーションした活動を展開し、もっと地域に密着した活動に取り組んでいきたいと考えています。



## ■ 年間を通じたプロモーションや売り場のご提案

お客様へ、年間を通じたタイムリーな企画や、季節、催事に沿った鮮度感のある売場のご提案、新製品のご案内を実施する会議(ACP: Annual Customer Plan)を実施しています。ACPは肥後橋のショールームで定期的開催し、それぞれのお得意様へきめ細やかなご提案を心がけています。2005年は上期・下期合わせて延べ142社216名の方々に来ていただきました。



## 今後とも協働で効果的な売り場作りを

能登祐二様  
イスマリア  
加工食品部  
バイヤー



勤や経験に頼っていた以前と比較して、近畿コカ・コーラさんと一緒になって売り場作りを行うようになり、各店舗で消費者視点に立った売り場作りができるようになりました。近畿コカ・コーラさんのデータ分析力やそれに基づく提案には優れたものを感じます。これからもいろいろな施策を近畿コカ・コーラさんと一緒に作り上げていければいいですね。

## ステークホルダーとの

協働の取り組みではお互いの参加意識のレベルが同じであることが大前提です。情報を共有したり、議論を交わしたり、時間と手間を費やして作り上げたプランが成功したときには何物にも変えがたい喜びがあります。2006年からは担当が代わりますが、今後もパートナーとしてお互い成長して行きたいものです。

チエンストア営業部  
流通第2グループ  
原田賢一様



議論を交わして作り上げていきましょう

# 社員とともに

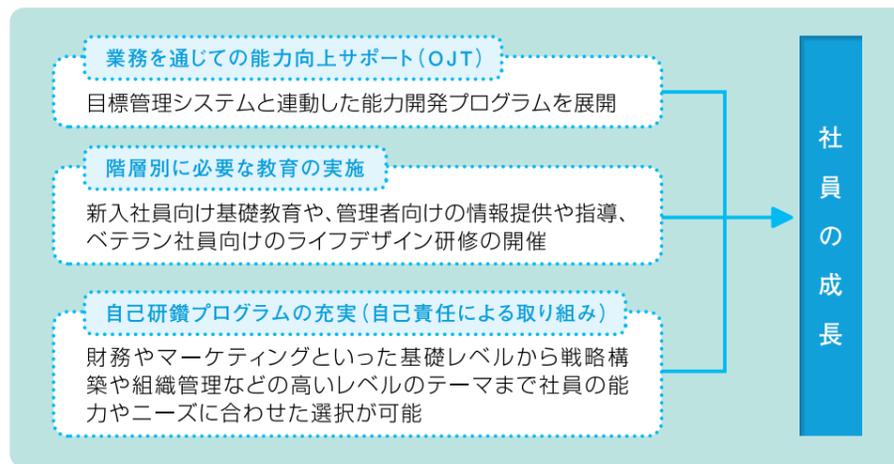
ひとりひとりがお客様満足を常に追求し、やりがいと誇りをもって自己の役割と目標を完遂します。



社員ひとりひとりが仕事と生活の両面で充実し、それにより働きがいが増えることで従業員満足はもちろん、ビジョン実現を推進するパワーが最大化すると考えています。

## 社員ひとりひとりの能力基盤向上とやりがいと誇りの醸成を目指して

近畿コカ・コーラボトリンググループの社員ひとりひとりがチャレンジし、成長しようとする風土づくりを行うとともにそれを支援する為の社員の能力開発や発揮の機会を提供しています。



## 仕事と生活の充実と両立に基づく働きがいの向上を目指して

### 次世代育成支援行動計画

2005年4月の「次世代育成支援対策推進法」施行に基づき、近畿コカ・コーラボトリングおよび一部のグループ会社で「次世代育成支援行動計画」を策定しました。その中で、半日有給休暇制度の導入、育児休業制度の見直し等の目標を立てて取り組んでいます。

### 会員制福利厚生サービス「えらべる倶楽部」

社員ひとりひとりの多様なニーズに応えるため、会員制福利厚生サービス「えらべる倶楽部」を導入しています。旅行等のレジャーや生活支援、自己啓発他様々なメニューを安価で利用できます。



### 時短への取り組み

ワーク・ライフ・バランス<sup>\*</sup>の充実、社員の健康そして会社の生産性向上に向けて、総労働時間の短縮に取り組んでいます。2005年より社長を本部長とする「時間管理推進本部」を立ち上げ、時間管理に関する研修や事業所訪問など、管理職への啓発活動を行っています。また、有給休暇の計画付与制度を取り入れ、有給休暇の取得推進にも努めています。

<sup>\*</sup>ワーク・ライフ・バランス:仕事と仕事以外の生活のバランス



## 多様性を尊重し、多様性を受け入れる風土の醸成を目指して

### 女性社員の能力発揮推進

成長意欲と就業意思のある女性社員がより活躍するために、管理職や女性社員向けの意識啓発、関連諸制度の見直しを中心に取り組んでいます。



女性社員セミナーの様子

### 人権啓発への取り組み

ひとりひとりがお互いを尊重し、他人を思いやる人権意識の高い社員および明るい職場をつくるため、グループ全社で人権啓発に取り組んでいます。



人権研修の様子

### 障がい者雇用

2005年度の障がい者雇用率は、近畿コカ・コーラボトリングが2.3%、関西ビバレッジサービスが1.8%となっており、これは大阪府下の平均を大きく上回る数値であると共に法定雇用率をクリアしています。

また、障がい者の職場体験学習の受け入れも実施しており、障がい者の皆さんの就業を支援しています。

#### 2005年度障がい者雇用率

近畿コカ・コーラボトリング	2.34%
関西ビバレッジサービス	1.87%
大阪府平均	1.51%
全国平均	1.49%

<sup>\*</sup>常用労働者数301以上  
<sup>\*\*</sup>法定雇用率は1.8%

### 高齢者雇用

50歳を迎えた社員を対象に、定年退職後を含めた今後のライフプラン(生きがい・健康・経済)を考える研修を実施しています。また、定年退職後も働ける再雇用制度も導入しています。



## 安全で働きやすい職場環境づくりを目指して

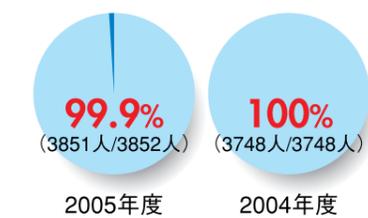
健康管理対策としては、健診後の事後措置として「二次健診」(再検査・精密検査)もしくは「要受診」を必要とする社員に対し、早期受診の指導およびフォローを行っています。また、産業医もしくは医務担当者による面談では、生活習慣や行動の改善を求めています。

メンタルヘルス対策としては、グループ全社の管理者を対象にラインケア<sup>\*</sup>教育を実施し、早期発見・医務担当者との連携を軸に心の健康支援を行っています。

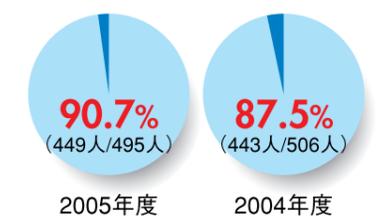
セルフケア教育としては、医務担当者から「ストレスとうまく付き合う方法」等の啓発情報を発信しています。また、心と身体の健康づくりの一環として、10月・11月の2ヶ月間、万歩ウォーキングを実施し、736名が目標を達成しています。

<sup>\*</sup>ラインケア:管理者による部下への個別相談対応、職場環境等の改善

### 健康診断受診率



### 二次健診受診率



# 株主・投資家とともに

日々の健全な企業活動を通じ、毎年、増益を達成します。



## 継続的な株主価値向上を目指して

当社は株主の皆さまへの利益還元を経営における最重要課題の一つとして認識し、利益配分につきましては、業績、配当性向、将来の見通しを考慮して継続的な利益還元を行うことを基本方針としています。

その一環として、当社は2004年12月期の期末配当金から1株につき12円に増額しました。これにより2005年度の年間配当金は1株につき24円となりました。

### 単元株式数の変更

投資家の皆さまにより投資していただきやすい環境を整えるとともに当社株式の流動性向上を図るため、2005年6月1日より1単元の株式数を1,000株から100株に変更しました。

1株あたり配当金の推移グラフ(円)



## 株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション

株主・投資家の皆さまに向けて、わかりやすく、正確でタイムリーな情報提供を心がけています

### 株主総会

株主の皆さまに、当社の事業概要や決算の動向について、より深くご理解いただくため、2004年度株主総会より、スライドを用いたビジュアルでのご説明を開始しました。

### 株主優待制度

毎年12月31日現在の100株以上保有していただいている株主の皆さまを対象に、年1回保有株式数に応じて当社製品を贈呈しています。

保有株式数	優待内容
100株以上500株未満	当社製品(700円相当)
500株以上1,000株未満	当社製品(1,400円相当)
1,000株以上	当社製品(3,300円相当)



写真は1,000株以上保有の株主の皆さまを対象とした3,300円相当の当社製品イメージです。実際の優待品とは異なる場合があります。

### 決算発表

毎年、決算の早期化を推進し、株主・投資家の皆さまに正確な決算情報をすみやかに公開しています。

### 決算説明会

機関投資家向けの広報活動として、期末期および中間期に決算説明会を実施しています。説明会では、経営トップ自らが経営方針や具体的戦略、決算について説明し、上場企業としての使命を果たすと共に、投資家の皆さまからより強い信頼感を獲得できるよう心がけています。



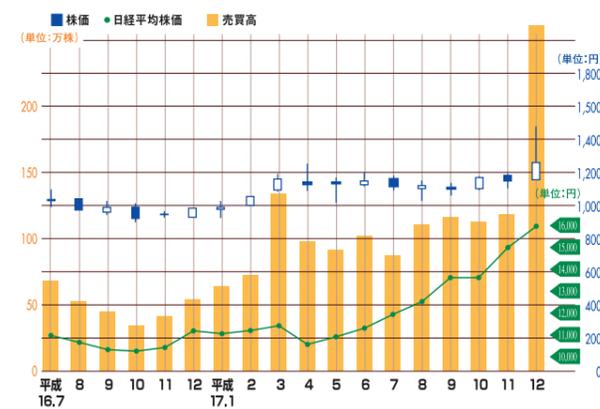
## 個人投資家とのコミュニケーション

個人投資家の皆さまとコミュニケーションを図るため、個人投資家を対象とした各種セミナーやフェアへ積極的に参加しています。

投資家の皆さまからのご質問には当社の社員自らが応えることで、当社の事業や業績についてご理解を深めていただけるよう努めています。個人投資家の皆さまのご意見に直接触れることができ、貴重な情報収集の場となっています。

### 株価・日経平均株価・売買高の推移

(株価:大阪証券取引所・売買高:大阪証券取引所、東京証券取引所立会内)



## ホームページでの情報公開

IR関連の資料は、ホームページのIR情報で公開しています。グラフや表を使用することで、当社の財務情報が一目で分かるように工夫しています。

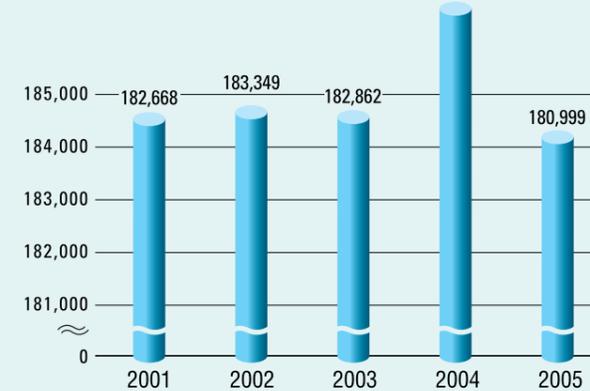
また、IR専用のお問い合わせメール窓口を設け、株主・投資家の皆さまからのご質問やご意見に速やかに対応しています。



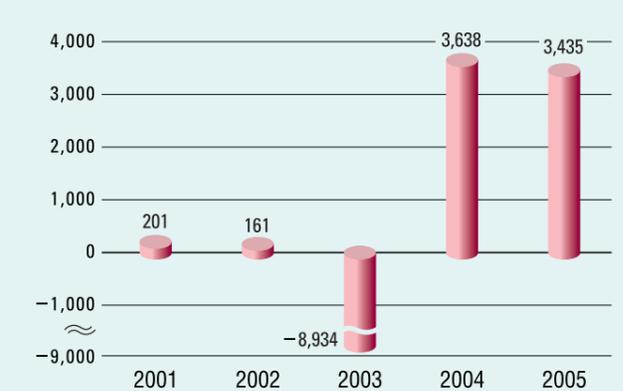
IR情報 <http://www.kinki.ccbc.co.jp/company/ir/index.html>

## 財務データ(連結)

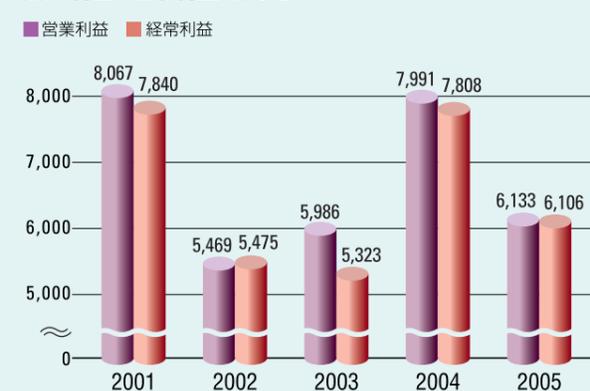
売上高(百万円)



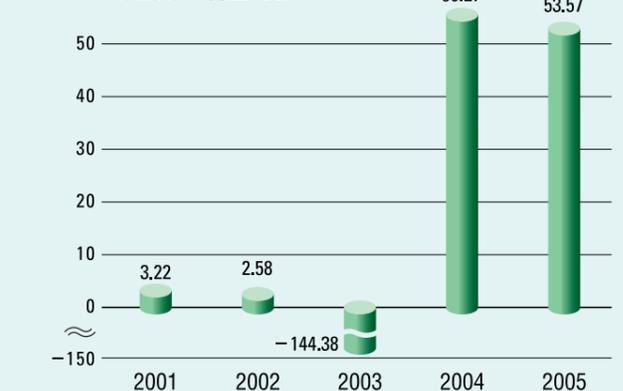
当期純利益(百万円)



営業利益・経常利益(百万円)



1株あたり当期純利益(円)



# 地域社会とともに

地域になくてはならない企業となること  
地域社会の一員として信頼される存在となること  
地域社会の発展と当社グループの発展が同時に実現されていることを目指します。



## 地域に密着した支援活動

当社グループは「さわやか創造企業」としてスポーツ、文化活動を通じて、地域の皆さまとともに歩んできました。これからもひとりでも多くの方々に、躍動感や感動を味わっていただけるように、全国規模のイベントから地域のイベントまで、幅広く地域に密着したコミュニティづくりをお手伝いしていきます。

## スポーツ支援活動

スポーツを通じた心身の健全な育成をサポートするため、大相撲大阪場所や全国高等学校体育大会（インターハイ）などの全国規模の大会から、近畿中学生バレーボール選抜優勝大会や関西チリニックなど地域の大会まで幅広く支援しています。



■ 大相撲大阪場所



■ 近畿中学生バレーボール選抜優勝大会



■ 関西チリニック



■ 兵庫県雪合戦大会



■ なぎさ街道サンセットウォーク

## 文化・教育・福祉活動支援

国際性豊かな青少年を育成する高円宮杯全日本中学校英語弁論大会や大学進学支援のコカ・コーラボトラーズ育英会、吹奏楽界の名物行事であるブラス・エキスポ、学校への教育ビデオの貸出を行うビデオライブラリーなど様々な分野を支援しています。



■ ブラス・エキスポ



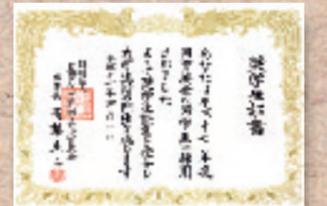
■ 高円宮杯中学校英語弁論大会（兵庫県大会）



■ 吹田こどもまつり



■ ビデオライブラリー



■ コカ・コーラボトラーズ育英会

## グループ社員による地域コミュニティ支援

当社グループの社員は社員である前に地域住民であり、職場を離れたところで様々なコミュニティ（自治会・PTA・スポーツチームなど）に属しています。そこで、グループ社員がプライベートでも「コカ・コーラファンを増やそう」という活動ができるように「地域コミュニティ協賛窓口」を設けています。グループ社員は自発的にその地域ネットワークを通じて、京都工場見学ツアーや地元の夏祭り、吹奏楽コンクール等さまざまな場面で「一人でも多くの熱烈的なコカ・コーラファンをつくらう!」と商品やコカ・コーラグッズの協賛活動を展開しています。

2005年は238件の地域コミュニティ支援を実施し、年々コカ・コーラファンの輪が広がっています。



■ 婦人会での京都工場見学ツアーで!



■ 地元の獅子祭り!



■ 吹奏楽団コンクールへ向うバスで!

## 潮風とコカ・コーラはイメージが合います

田所久子様  
正しい歩き方推進実行委員会実行委員長



なぎさ街道のサンセットウォークを実施して去年で4年目になりますが、2年目から近畿コカ・コーラさんにお世話になっています。やはりコカ・コーラのロゴがあるとイベントの盛り上がり方が違います。海沿いのウォーキングは海風による海洋療法の効果があり、なぎさ街道とともに近畿コカ・コーラさんからももっとアピールしていただきたいと思っています。

## ステークホルダーとの

## 人と人をうるおすコカ・コーラをお願いします

田所さんとは垂水区のよさこい祭りを通じて知り合い、様々なイベントを開催していただいています。サンセットウォークは年に2回行っているのですが、去年はどちらも暑かったですね。参加者の皆さんには爽健美茶をゴクゴクおいしそうに飲んでいただきました。コカ・コーラタオルやTシャツがあたる抽選会も好評でしたね。



勝田隆文  
市場開発部

人と人をうるおすコカ・コーラをお願いします

## 地域の「学習の場」、「楽しみの場」の創造

### マジカルエコーラのファクトリーツアー（京都工場見学）

お客様とのダイレクトコミュニケーションを実現しようと2005年1月7日よりマジカルエコーラのファクトリーツアーを開始しました。土日祝はファミリーで、平日は学校の社会科見学や企業・福祉団体などの勉強会にと幅広い層のお客様にご来館いただいています。2005年は年間約37,000人のお客様にご来館いただきました。



見学ツアーは清潔な環境、厳しい品質管理のもと安全で安心して飲める飲料の製造工程を「見せる」部分とコカ・コーラの歴史やおもしろエピソードなどを3D映像やタイムトンネルなどで紹介する「魅せる」部分の二つの融合をコンセプトに企画された施設になっています。

私たちツアーガイドはお客様に、より深くコカ・コーラのことを知っていただき、ひとりでも多くコカ・コーラのファンになっていただけるよう、日々お客様を笑顔でお迎えし心をこめてご案内しています。多くの皆さまのご来館お待ちしております。



### ツアーのご案内 完全電話予約制

- 開始時間 ①10:30 ②13:00 ③15:00
- 所要時間 約90分
- 休館日 第1、3、5月曜日、年末年始、その他臨時休館日  
(第1、3、5月曜日が祝日の場合は開館、翌日が振替休館日)
- 入場料 無料(グッズ販売、プリクラ、ボトル自販機など一部有料)
- お申込み TEL0774-43-5522(10:30~16:00/休館日除く)  
※2~50名様、完全予約制、51名様以上の方はご相談ください
- 駐車場:お客様専用駐車場25台(バス2台)

詳細情報(地図あり) <http://www.kinki.ccbc.co.jp/> ※「工場見学のご案内」をご覧ください。

近畿コカ・コーラボトリンググループ  
since 2005  
Factory Tour  
マジカルエコーラの  
ファクトリーツアー  
京都工場



## 環境とともに

「環境」は、人のように語ることはありませんが、私たちの事業によって影響を受けるステークホルダーです。

「環境」からの期待に応えられるよう、私たちはエネルギー、水、廃棄物の削減を中心とする活動を続けています。



環境方針

環境理念

近畿コカ・コーラボトリンググループは、「さわやか創造企業」として、「地球環境の保全」を最重要課題のひとつと認識し、持続可能な社会の構築に向けて、継続的に環境保全活動を推進していきます。

環境基本方針

近畿コカ・コーラボトリンググループは、コカ・コーラ世界共通の環境マネジメントシステム「eKOシステム」を導入し、清涼飲料に携わる企業として、水使用、エネルギー使用、廃棄物の発生が主要な環境負荷であることを認識し、環境汚染の防止と環境負荷の継続的削減に努めます。

- 1 調達、製造、物流、販売、消費、廃棄・リサイクル活動を通じて、それぞれの場面で環境に配慮し、効果的な改善を実践します。
- 2 お客様と当社製品とを直接結ぶ販売の場では、特に自動販売機に配慮し、オゾン層破壊物質の使用全廃に努めると共に、省エネルギー型の自動販売機を積極的に導入します。
- 3 適用される法規制、及び地域住民や業界との協定等を確実に遵守し、さらなる改善に努めます。
- 4 地域社会と積極的にコミュニケーションを図り、良き企業市民として地域社会と共に環境保全活動に取り組みます。
- 5 グループの全従業員が「eKOシステム」の運営・管理に参画できるように、従業員への環境教育を実施し、環境保全意識の向上と環境啓発活動に積極的に取り組みます。
- 6 環境監査を定期的実施し、「eKOシステム」の継続的な改善に努めると共に、環境報告書・環境会計等を通じ社内外へ情報開示します。



空容器の3R推進

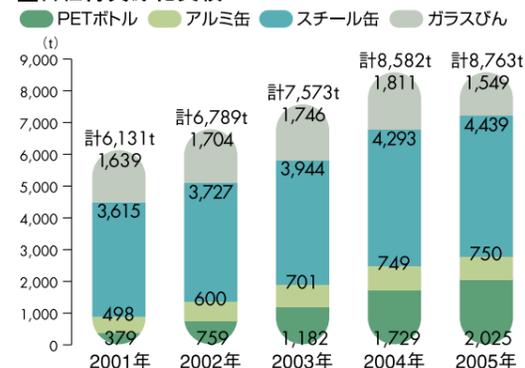
空容器のリサイクル

最後は空容器になる私たちの製品。  
私たちは、空容器を回収してリサイクルする活動を続けています。

空容器のリサイクルの流れ

自動販売機横の回収ボックスから各事業所に回収された空容器は、委託処理業者が運搬するルートと、当社グループの専用車で事業所を巡回、回収し、委託処理業者へ持ち込むルートの、2通りのルートがあります。

■自社再資源化実績



※空容器回収ボックス(自動販売機横に設置)に廃棄された空容器の回収・再資源化に関するデータです。

RECYCLE

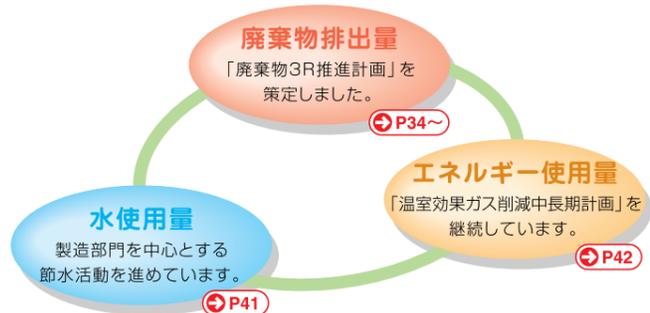
- アルミ缶 → アルミ缶 自動車部品 台所用品等
- スチール缶 → 建築用鉄材 等
- PETボトル → PETボトル 衣類 衣類
- ガラスびん → 再生びん 断熱材 道路舗装材 等
- 紙カップ → トイレtpーパー トイレtpーパー タオル 等
- 紙パック (7/10パック) → トイレtpーパー タオル
- 選別残渣 → 適正処理

eKOシステム (環境マネジメントシステム)

eKOシステム

eKO(イー・ケー・オー)システムは、コカ・コーラシステムのために設計された独自の環境マネジメントシステムです。私たちは、このeKOシステムを土台として、水使用量、エネルギー使用量、廃棄物排出量(3つの削減項目)の削減に取り組んでいます。

3つの削減項目

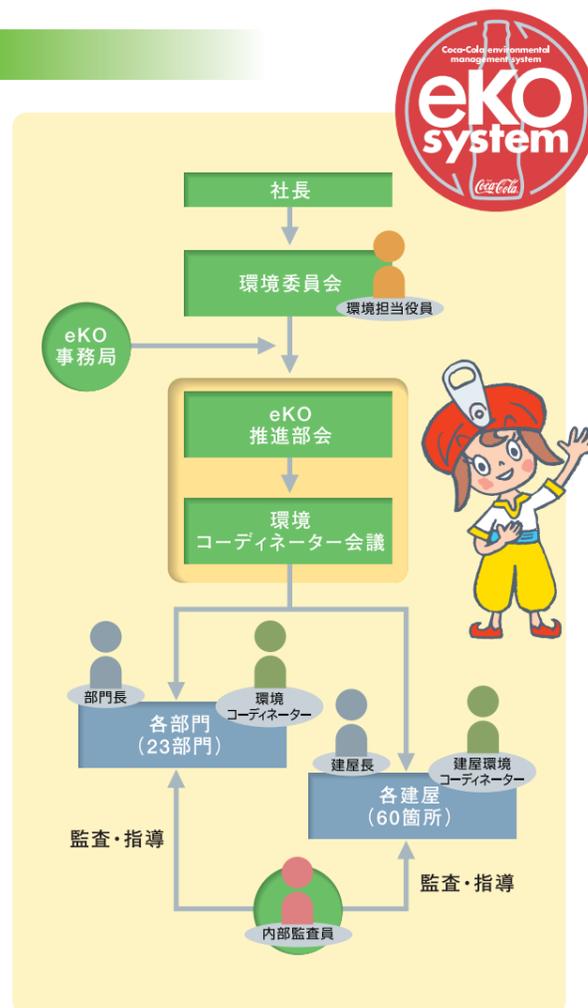


組織体制の特徴

建屋での電気使用やゴミの排出などの直接的な環境負荷の管理だけでなく、各部門における通常の業務の中でも環境保全に貢献できるような分野を探し出すことをねらいとして、「部門」(経営組織上の指揮命令系統の区分)と「建屋」(物理的・地理的な区分)という2つの切り口でマネジメントする形態をとっています。

法規制の遵守状況

eKO内部監査の結果、環境規制を逸脱して大きな事故に直結する恐れのある管理上の問題点は発見されませんでした。(2005年9月、近畿コカ・コーラプロダクツ(株)明石工場において発生した苛性ソーダ流出事故についてはP.5を参照ください。)



近畿コカ・コーラボトリンググループのCSR

ステークホルダーとともに

環境とともに



■ 空容器の3R推進

## 空容器リサイクルへのご協力のお願い

「一本でも多くの空容器をリサイクルしたい。」  
 そう願うからこそ、回収ボックスに異物を混入されないようご協力をお願いします。

### 空容器回収ボックスは「ゴミ箱」ではありません

お客様に製品をご利用いただいた後の空容器を回収・リサイクルすることは、清涼飲料事業を営む私たちらしいかたちでの3Rの推進であると考えています。

空容器回収ボックスは、この回収・リサイクル活動の出発点として設置しているものですが、このボックスに異物(空容器以外のゴミ)が混入して様々な弊害が生じています。

### ゴミが混ざると・・・

- ゴミの量だけ、本来回収・リサイクルできたはずの空容器がリサイクルできなくなる。
- ボックスに入りきらない空容器が周囲に散乱し、地域の方々の迷惑となる。
- 回収物の中に吸殻や生ゴミなどが含まれると、分別作業に従事する方の健康を害する恐れがある。
- 本来リサイクルに用いられるべき費用が、ゴミの選別および選別後の残渣の適正処理の費用にまわってしまう。

### 私たちの活動

空容器回収のためのボックスであることを明示するためのステッカーの貼付を継続しています。  
 この啓発活動に加えて、例えば外から中身の見える透明なタイプの空容器回収ボックスなど、異物を投入しにくい空容器回収ボックスの導入の検討をしていきます。

### 協働で進めたい空容器リサイクル

異物混入は、私たちのリサイクル活動にとって切実な問題ですが、現在はまだ、状況を改善するために試行錯誤しているのが現状です。是非私たちの取り組みへのご協力をお願いするとともに、ご意見をおよせいただければ幸いです。



残渣率が5%増えた場合の  
 空容器リサイクルコストの増加額  
**約25百万円** (当社調べによる試算値)

### 空容器回収ボックス用シール

「ゴミ箱」ではなく、リサイクルするための「空容器回収箱」であることを啓発しています。空容器以外の一般ゴミの混入防止を目的としています。



## 紙カップ、空容器回収袋等のリサイクル

空容器の回収・リサイクルへの飽くなき挑戦。  
 私たちは、私たちにできることを探しつつけます。

### 紙カップ等のリサイクル

2006年目標  
 紙カップリサイクル量 前年比**100%増**(倍増)

当社グループでは、缶・PETを中心とする空容器のリサイクルを進めてきた一方で、紙カップやブリックパック類の空容器については、缶・PETと比べると相対的に異物の混入量が多いこともあり、トイレットペーパー等にもリサイクルされる一部を除き、大部分を廃棄物として処理してきました。

このほど、「廃棄物の3R推進計画」の策定を契機に、まず大阪市内の5事業所で回収する紙カップ等についてリサイクルするルートを整備しました。

紙カップやブリックパック以外にも、梱包用のストレッチフィルム等、空容器以外のリサイクルについても順次拡大していきます。

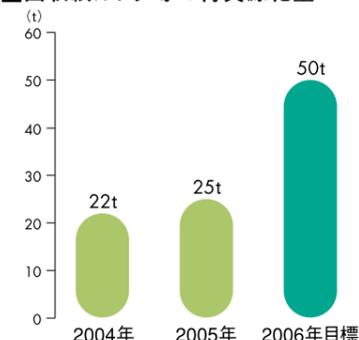
### 空容器回収袋のリサイクル

空容器は、空容器回収ボックス内の袋ごと回収されます。当社グループは、この回収袋が選別残渣の中で無視できない量を占めていることに着目しました。

そこで、実際に選別・リサイクルを行うリサイクル業者((有)新垣商店様)に、空容器回収袋を廃プラスチックとしてリサイクルする設備の導入を提案しました。2006年夏からの稼働を予定しているこの設備の導入により、毎年約57トン(回収袋150万枚相当)をリサイクルできるよう取り組んでいきます。



■ 回収紙カップ等の再資源化量



空容器は、袋につまった状態で回収される。回収袋自体が無視できない量を占めている。

空容器回収袋リサイクル設備



### 混入ゴミの削減は共通のテーマ

空容器回収時に混入する異物が分別作業に従事する当社従業員の負担となっています。この問題に対して近畿コカ・コーラさんは、自社事業所での分別の改善に加えて、近畿コカ・コーラさんのお客様への啓発活動の強化という形でも支援してくれています。混入ゴミの削減を共通のテーマとして捉えていただいていると感じ、頼もしく感じます。当社としても、近畿コカ・コーラさんの3R推進への思いに繋がる取り組みを今後も模索していきたいと考えています。

代表取締役  
 谷川 秀子様  
(近畿コカ・コーラボトリング)



### ステークホルダーとの

回収空容器の選別過程の後に発生する残渣を削減することは、3Rを推進する当社にとって切実な問題です。かねてよりこの選別残渣廃棄量を削減するために出来ることを模索してきた中で、空容器回収袋についてリサイクルすることを新垣商店さんに提案したところ、設備の導入を決定していただきました。今後ともに3Rに取り組むパートナーとして、当社ですべきことはきっちり実行し、頼れるところは頼るといふ協働関係を継続できれば良いと思います。

近畿コカ・コーラボトリング(株) 広報部 環境室 篠内 仁

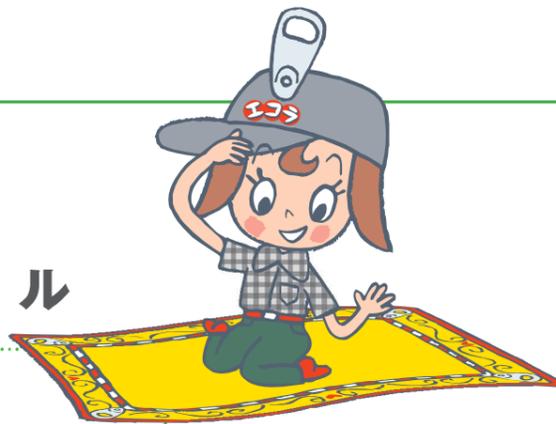


ともに3Rに取り組むパートナーとして

■ 排出事業者としての3R推進

# 製造工程廃棄物のリサイクル

製造工程で発生する廃棄物の削減・再資源化に取り組むとともに、責任をもって適正処理を行っています。



**2005年目標**

廃棄物等排出量を原単位で  
前年比**1%削減**

**2005年実績**

原単位で  
前年比**2%増加**

**2006年目標**

再資源化率**99%以上**

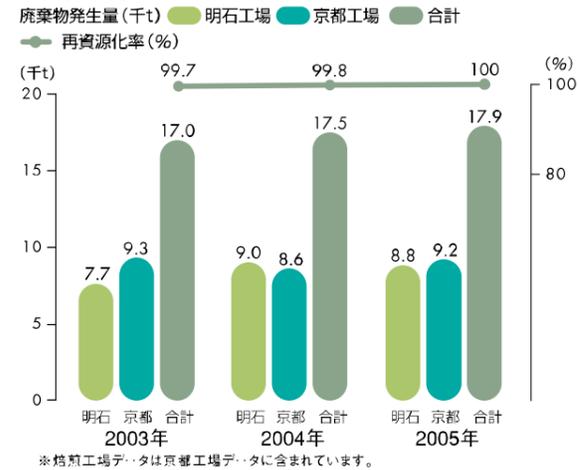
対象範囲: 製造部門  
※1: 原単位 (kg/kℓ) = 産業廃棄物発生量 (kg) ÷ 製造量 (kℓ)

■ 廃棄物の発生段階で抑制対策

2005年は歩留まりの向上、脱水汚泥含水率の適正管理などに取り組まれましたが、生産量の増加により、廃棄物等排出量は前年に比べて2%増加しました。原単位でも前年比2%増加となり、目標を達成することができませんでした。

工程改善などの廃棄物発生源での抑制対策が定着してきたことから、今後は、再資源化率を目標指標とした資源循環活動に取り組んでいきます。

■ 廃棄物等排出量および再資源化率の推移



■ 再資源化量内訳



■ プラスチックベルトコンベアチェーンのリサイクル

工場で使用しているベルトコンベアのチェーンはプラスチック製で、3年ごとに取替えた後産業廃棄物として処理してきました。京都工場ではこの使用済みチェーンをもう一度チェーンとして再生することで、廃棄物削減とチェーン材料の節約に取り組みました。チェーンメーカーと共同でリサイクル素材のチェーンを開発し、強度や耐久性を1年間にわたりテスト調査した結果、バランサー素材のチェーンに劣らないことがわかりました。今後は、リサイクル素材のチェーンの使用を本格化させるとともに他のボトリング社の工場へも広めていきたいと考えています。



■ 3R推進の基盤

# 廃棄物委託先業者視察等

私たちが推進していく3Rは、空容器や廃棄物が適正にリサイクル・処分される仕組みづくりや社員ひとりひとりの高い環境意識なくして成り立ちません。私たちは3Rの基盤強化に取り組んでいます。

■ 廃棄物委託先業者視察

空容器や工場廃棄物、廃棄自動販売機が適正にリサイクル又は処分されているかどうかを確認するために、各担当者が処理現場を視察しています。

2006年以降はオフィスからの一般廃棄物処理委託先についても定期的に現場視察を行う予定です。

■ 委託先業者の許可証を管理

オフィスから排出される廃棄物や廃棄自動販売機のリサイクル、空容器リサイクルに関わる委託業者の許可証情報を本社で一元的に把握し、許可証の有効期限の確認を行っています。京都工場及び明石工場では各工場にて許可証管理を行っています。



委託先業者視察風景



■ 自動販売機のリサイクル・適正処理

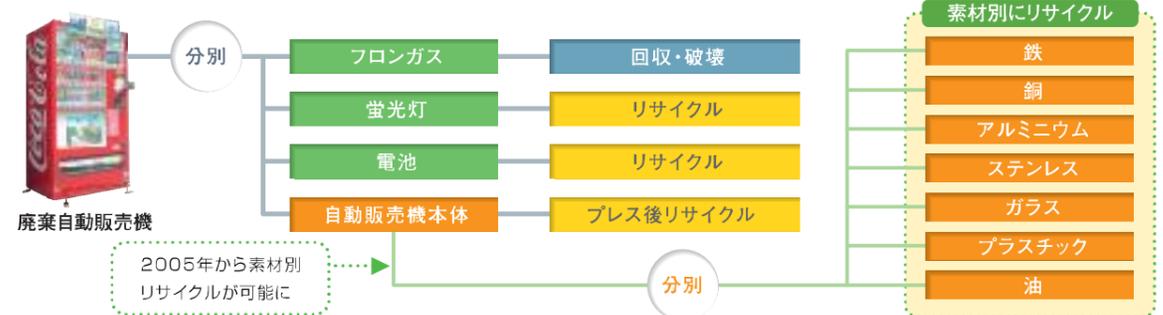
廃棄になった自動販売機は、フロンガス、蛍光灯、電池を回収した後、自動販売機本体を鉄スクラップにして製鐵メーカーでリサイクルしてきました(フロンガスは破壊処理)。2005年度からは、一部の自動販売機について自動販売機本体を素材ごとに分解したうえで、リサイクルすることが可能になりました。

■ 廃棄台数とフロンガス回収量

	2003年	2004年	2005年
廃棄台数(台)	16,290	16,550	15,709
年間フロンガス回収量(kg)	2,808	3,594	3,971

※ 廃棄台数は、飲料自動販売機以外に、ディスプレイ、ショーケースを含んでいます。

■ 廃棄自動販売機のリサイクルの流れ



■ 3R推進の基盤

## 事業所周辺美化活動

私たちは地域社会の一構成員として、地域の美化や景観保全に取り組んでいます。地域美化活動は、社員ひとりひとりが3Rの担い手として廃棄物の削減やリサイクルについての意識を高める機会でも考えています。

2006年目標

事業所周辺美化活動への参加者数のべ5,000人

事業所周辺の美化

10年前に本社からスタートした社員による事業所周辺の清掃活動。現在は23事業所で清掃活動を実施しています。

本社と高槻事業所では大阪府のアドプト・ロード・プログラムに参加し、大阪府と市町村の支援のもと地域に愛される道路づくりに取り組んでいます。

2005年は新たに大阪中央事業所が周辺の清掃活動をスタートさせ、本社、営業所を合わせたべ2,998人の従業員が参加しました

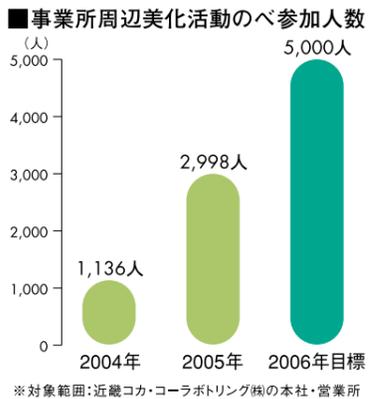
地域の美化活動に参加

地元自治体や環境団体が主催している環境イベントにも参加し、地域の美化に協力しています。

2005年も「ビーチクリーンアップ in SUMA」などの美化活動への参加や祇園祭におけるゴミ箱の提供などを行いました。



大阪中央事業所での清掃活動



■ 2005年度エリア別実績

エリア	のべ参加人数
大阪	1,138
京都	973
兵庫	887
合計	2,998



■ 将来世代の3R推進

## 環境教育プログラム

将来世代に3Rの重要性を伝えることが、同じ目的に向かって協働するパートナーを育成することになると考えています。

学校エコ訪問

当社では、将来日本の社会を担っていく子どもたちを対象とした、学校へ出向いての環境教育を行っています。これは、当社の販売している飲料の空容器がゴミとして排出され、リサイクルされるまでの流れを知ってもらうと共に、日本のゴミ問題の現状、3Rの推進、そのために私たちに出来ることは何なのかを伝えるものです。環境教育を受けていただいた、子どもたちから更に親、兄弟へと少しでも多くの人に伝わればと思います。

あおぞらエコ教室

京都府綾部市の綾部事業所にある、空容器の自社処理施設「あやべエコ・リサイクルステーション」では、綾部、豊岡、大宮の3つの事業所から回収してきた空容器の選別・圧縮処理を行っています。従来、見学に来ていただいた皆さまには、施設の説明、リサイクルの流れについて簡単に説明をしていましたが、本年度より、見学と合わせて、「学校エコ訪問」と同じく、日本のゴミ問題の現状や3Rの推進のために私たちに出来ることは何のかなどを伝えるために、当社施設内の青空の下で環境教育を行う予定です。



柳学園高等学校での学校エコ訪問の風景



アルミ・スチール缶圧縮機



あやべエコ・リサイクルステーション

綾部事業所内には、「あやべエコ・リサイクルステーション」のほかにも、物流倉庫「綾部物流センター」、自動販売機の修理工場「レックステクノシステムズ綾部工場」があり、見学の際には、まとめて見学していただくことが出来ます。



レックステクノシステムズ綾部工場



綾部物流センター

環境教育プログラムのお問い合わせ窓口  
近畿コカ・コーラボトリング(株) 広報部 環境室  
☎06-6330-2191 FAX.06-6368-2705



楽しくエコロジー(京都工場エコロジースクール)

京都工場見学 (P31参照) の施設を利用した、小学生を対象とする環境教育プログラムです。エコラちゃんやツアーガイドたちと環境について楽しく学ぶことができます。当年3月から開催しています。

公共性の高い企業活動を応援します

走  
上  
良  
一  
様

大阪市港区の臨海地域は、比較的不法投棄が多いエリアです。投棄されたゴミがまた別のゴミを呼ぶという傾向もあり、行政も頭を痛めています。近畿コカ・コーラさんによる自主的な清掃活動は、ゴミの回収はもちろん、街を綺麗に保つことによって更なる不法投棄を未然に防ぐ効果があると思われます。そしてまた、そのような活動が隣接企業の同様の活動を促し、更に広い範囲に波及していくという効果もあるようです。

そのような公益性の高いご活動を今後も応援させていただきたいと思っております。

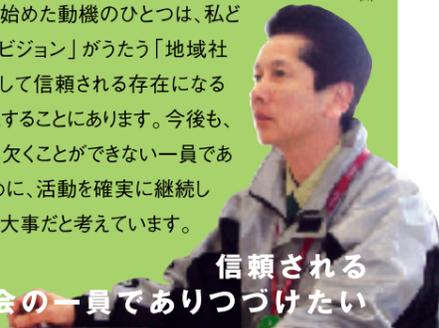
ステークホルダーとの

大阪市からは、ゴミ袋等の用具提供や回収廃棄物の適正処理などの形での私どもの清掃活動を支援いただいています。地域の美化という共通の目的のもと、良い協働関係ができていないのでしょうか。清掃活動を始めた動機のひとつは、私どもの「CSRビジョン」がうたう「地域社会の一員として信頼される存在になること」を実践することにあります。今後も、地域社会に欠くことができない一員であり続けるために、活動を確実に継続していくことが大事だと考えています。

栗山博英

関西ビバレッジサービス(株)  
西大阪地区  
大阪中央駐在

信頼される  
地域社会の一員でありつづけた



■ 水に関する取り組み

# 大切な水を守るために

清涼飲料を製造・販売している私たちにとって、地球の共有財産である水を節約すること、水を汚さないことは欠かすことのできない重要な取り組みテーマです。

**2005年目標**

※1  
水使用量を原単位で  
前年比**1%削減**

**2005年実績**

原単位で  
前年比**1%増加**

対象範囲：製造部門  
※1：原単位 (m<sup>3</sup>/kℓ) = 水使用量 (m<sup>3</sup>) ÷ 製造量 (kℓ)

大切な水を無駄にしない

京都工場では節水システムによる冷却水の回収徹底や抽出工程での水使用量削減に取り組みました。

明石工場では回収した冷却水の一部が回収タンクからオーバーフローして排水となっていました。回収量を調節することによりオーバーフローを防止し、水使用量と排水量の削減を図りました。こうした節水活動を実施したものの、生産量の増加により水使用量は前年に比べて2%増加しました。また、小ロット生産へのシフトにより、原単位でも前年比1%の増加となりました。

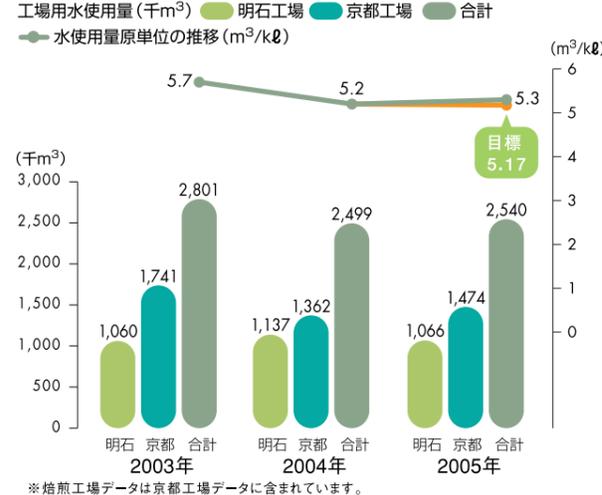
今後も水使用量の削減努力を継続していきます。



使った水はきっちり浄化

京都工場の排水のほとんどは下水道に放流していますが、一部の排水と明石工場のすべての排水は河川に排出しています。河川への排出にあたっては、地元自治体と協定を結び、協定値を大幅にクリアできる水準まで工場内で浄化しています。

■ 工場用水使用量および原単位の推移



■ 排水処理状況

工場名	放流先	排水量 (m <sup>3</sup> /年)		測定項目	規制値 (mg/ℓ)	実績値 (mg/ℓ)	
		2004年	2005年			2004年	2005年
明石工場	河川放流	695,356	652,228	COD	20 (10)	5.6	5.8
				BOD	20 (10)	1.2	2.1
京都工場	河川放流	208,210	194,557	COD	25 (15)	1.6	4.8
				BOD	25 (15)	2.3	4.5
	下水道放流	980,649	1,106,693	COD	—	282	142
				BOD	600	216	163

※1 規制値は、明石工場・京都工場の河川放流については協定による規制値、京都工場の下水道放流については下水道法による規制値を示しています。  
※2 明石工場における苛性ソーダ流出事故については、P5を参照ください。



■ 温室効果ガス削減中長期計画レビュー

# 地球温暖化防止のために

eKO活動の重点項目の一つはエネルギー使用量。

私たちは「近畿コカ・コーラボトリンググループ温室効果ガス削減中長期計画」を策定し、エネルギー使用量の削減と地球温暖化防止に取り組んでいます。

**2005年目標**

温室効果ガス排出量を2000年レベルまで抑制  
(前年比**4%削減**)

**2005年実績**

2000年比**0.1%削減**  
(前年比4%削減)

**2010年目標**

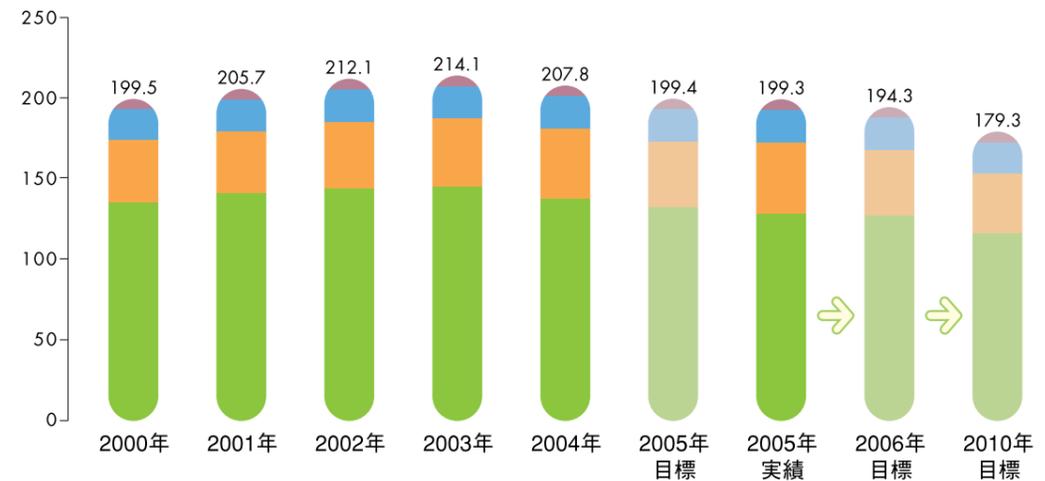
2000年比**10%削減**

温室効果ガス削減中長期計画のレビュー

当社グループは「近畿コカ・コーラボトリンググループ温室効果ガス削減中長期計画」において、当社グループの温室効果ガス排出量を2010年に2000年比で10%削減することを目標として定めています。活動初年度に当たる2005年の温室効果ガス排出量は199.3千トンで、2000年と同レベル(前年比4%削減)となり、2005年目標を達成することができました。自動販売機部門において、省エネタイプの自動販売機への更新台数が目標を上回ったことが寄与しました。

■ 当社グループの温室効果ガス排出量

自動販売機 製造 車両 オフィス (千t-CO<sub>2</sub>)



部門別にパフォーマンスをレビューしました

中長期計画では製造部門、自動販売機部門、車両部門、オフィス部門ごとの目標も設定しています。2005年は自動販売機部門およびオフィス部門で目標を達成することができました。

目標を達成できなかった製造部門では生産量が計画以上に伸びるなど中長期計画を策定した時点と経営状況が異なっています。経営状況の変化を反映させるため、2006年末に中長期計画を見直す予定です。

➡ 詳細はP43・44へ

チーム・マイナス6%への賛同

地球温暖化防止のための国民的プロジェクト「チーム・マイナス6%」(環境省提唱)に参加。空調エネルギーの節約や節水、エコドライブなどを実践しています。



# 部門別パフォーマンスレビュー



製造部門

2005年目標

温室効果ガス排出量を前年比**7.0%**削減

2005年実績

**1.5%**増加 (未達成)

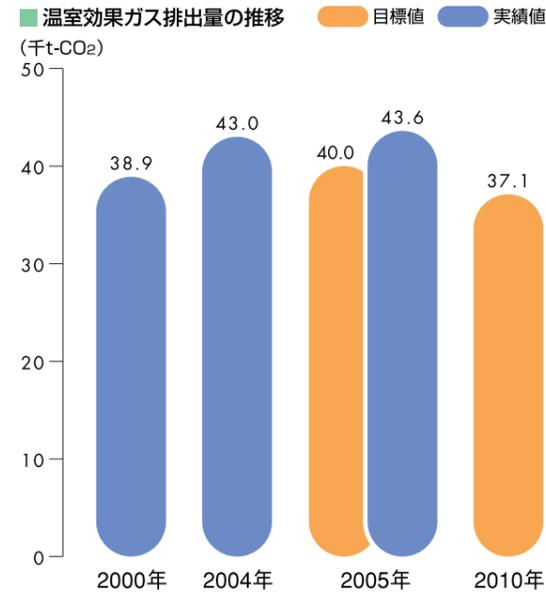
## 生産好調でエネルギー使用量が増加

明石工場では高圧コンプレッサーからの廃熱によりコンプレッサー室が高温になるため、冷房機器を設置しています。廃熱をダクトで回収し屋外へ排出する構造に変更したことにより、冷房用エネルギーを削減することができました。

このような対策をはじめとして、各工場で省エネルギー活動を実施したものの、生産量が前年比で3%増加したことによってエネルギー使用量は増加しました。その結果、温室効果ガス排出量は前年比1.5%増加となり、目標を達成できませんでした。

## 今後に向けて

CO<sub>2</sub>排出量がより少ない燃料へ転換していくとともに、生産計画に合わせて目標値を見直す予定です。



車両部門

2005年目標

温室効果ガス排出量を前年比**0.5%**削減

2005年実績

**0.5%**増加 (未達成)

## エコドライブ&エコカーで温室効果ガス削減

車両を保有しているすべての部門でアイドリングストップなどのエコドライブを徹底。2005年は天然ガス車を新たに34台導入しました。しかし、明石ロジスティックセンターの稼働に伴いフォークリフト燃料の使用量が増加したことや、営業車両の燃料使用量増加により、車両部門の温室効果ガス排出量は前年に比べて0.5%増加し目標を達成できませんでした。2006年以降も引き続き天然ガス車を導入していきます。

## 低公害車普及運動でトップランナー宣言

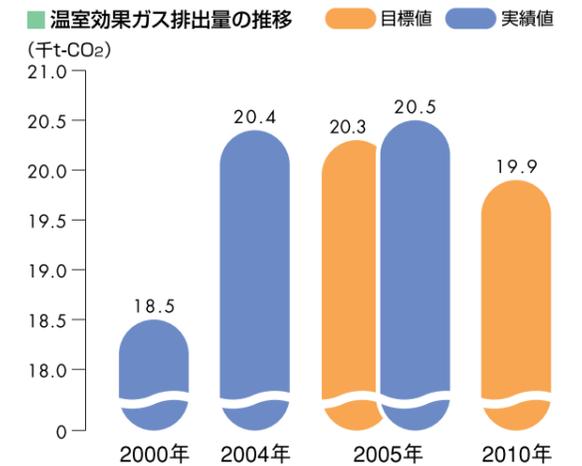
新規導入の天然ガス車34台のうち13台については、かつて著しい大気汚染に苦しんだ国道43号線沿いのエリアを対象に実施しました。また、当社および関西ビバレッジサービス(株)は、京都市における低公害車の導入・普及運動「京・まちなかエコカー普及運動」に賛同し、京都市都心部への配送車をすべて天然ガス車に切り替えるトップランナー宣言をしています。地域の皆さまと力を合わせて、地域環境保全に取り組んでいきます。



京・まちなかエコカー普及運動  
シンボルマーク



天然ガス自動車



自動販売機部門

2005年目標

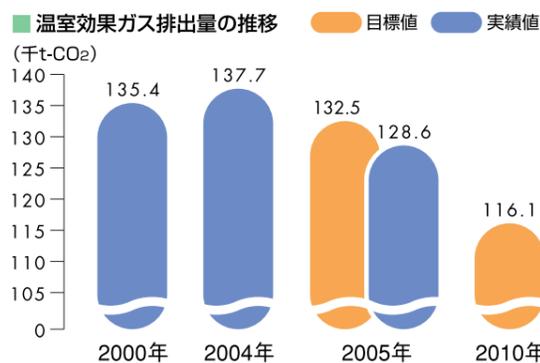
温室効果ガス排出量を前年比**3.8%**削減

2005年実績

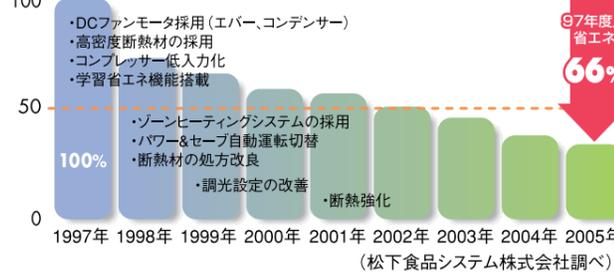
**6.6%**削減 (達成)

## 省エネタイプの飲料自動販売機を積極的に選択

既設の飲料自動販売機を新しい自動販売機へ更新する際には、省エネタイプの自動販売機を選択しています。こうした取り組みの結果、2005年の全飲料自動販売機の消費電力量は前年より減少しました。温室効果ガス排出量は前年比で6.6%削減となり、目標を達成することができました。省エネタイプの自動販売機への更新台数が目標台数を上回るとともに、自動販売機1台あたりの省エネ効果が当初計画よりも大きかったことが寄与しています。



## 標準型自動販売機の省エネルギーの推移



オフィス部門

2005年目標

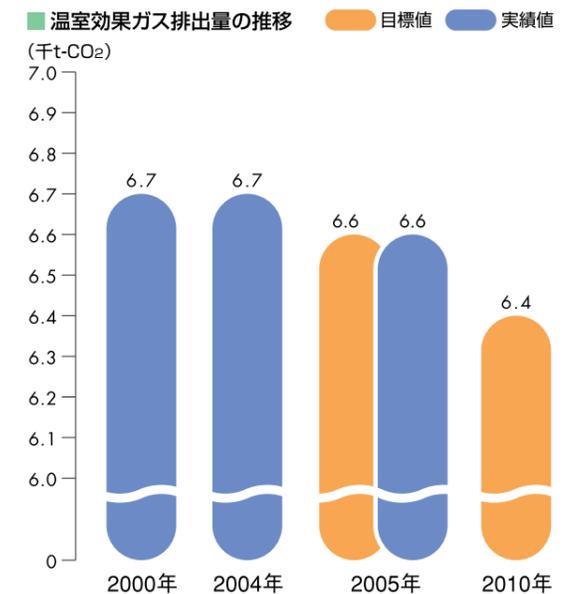
温室効果ガス排出量を前年比**1.0%**削減

2005年実績

**1.7%**削減 (達成)

## クールビズ&ウォームビズで省エネルギー

環境省が提唱するクールビズとウォームビズに賛同し、空調の設定温度を夏季28℃、冬季20℃に設定しています。全員参加で活動すべくポスター等で呼びかけた結果、こまめな消灯や温度管理に対する意識が向上し、照明や冷房・暖房用の電力使用量を削減することができました。温室効果ガス排出量は前年比1.7%削減となり、目標を達成しました。



近畿コカ・コーラボトリンググループのCSR

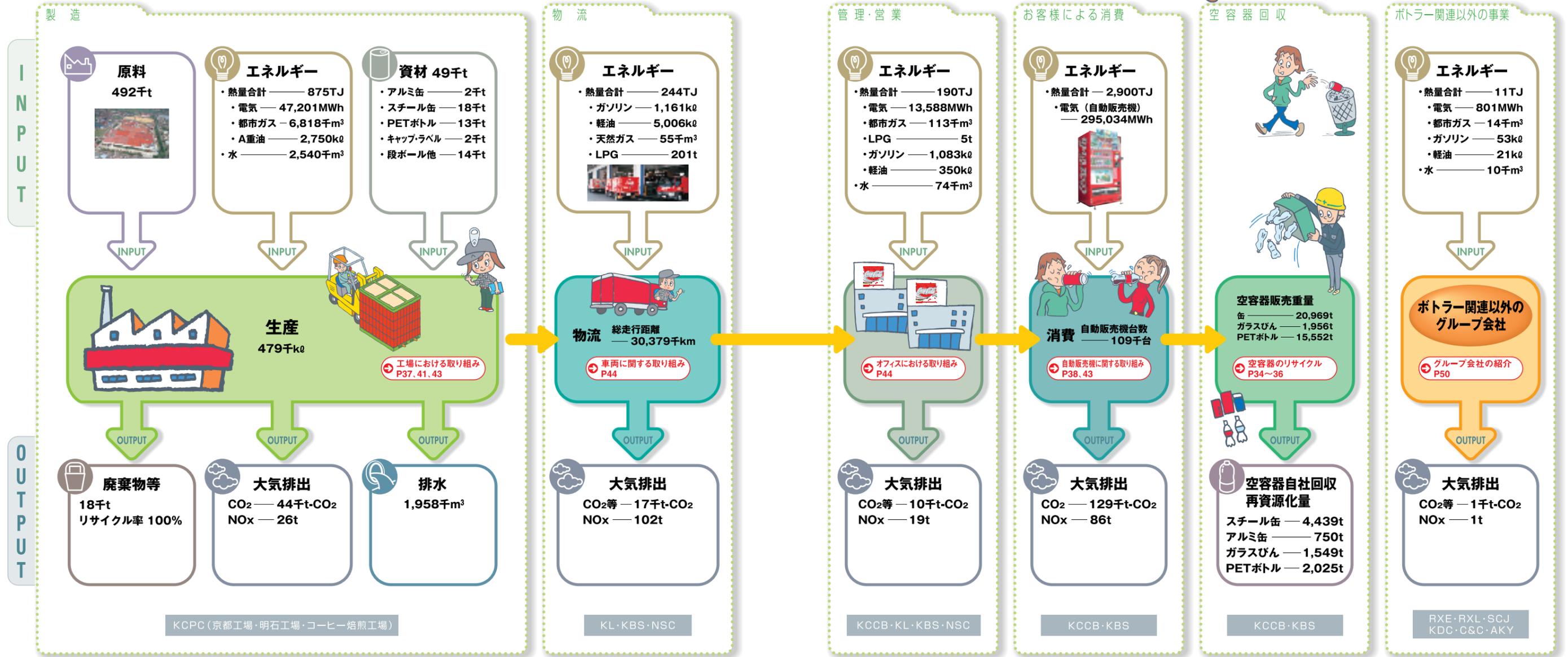
ステークホルダーとともに

環境とともに



環境負荷物質フロー

近畿コカ・コーラボトリンググループと環境との関わり



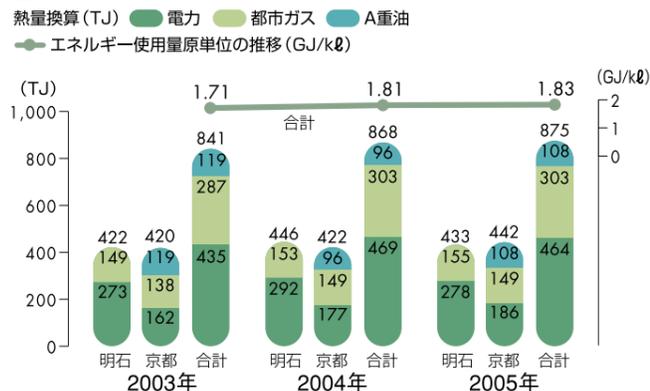
近畿コカ・コーラボトリンググループのCSR

ステークホルダーとともに

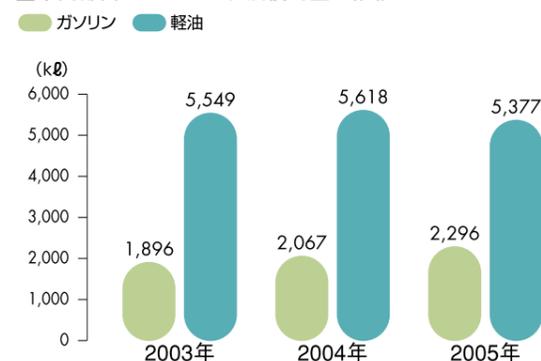
環境とともに

集計基準、集計範囲、会社名称等については、P48を参照ください

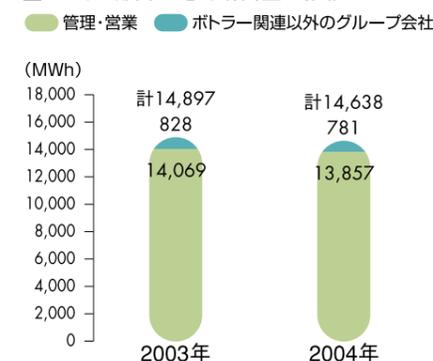
工場用エネルギー使用量および原単位の推移



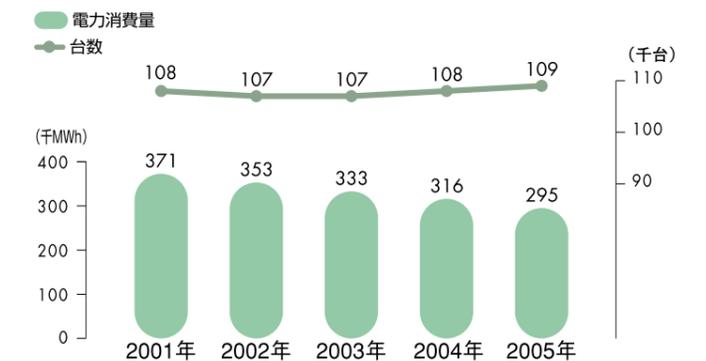
車両部門のガソリン・軽油使用量の推移



オフィス部門の電力消費量の推移



飲料自動販売機台数および電力消費量の推移



※焙煎工場データは京都工場データに含まれています。



環境会計

環境会計計算書

事業活動	集計対象	環境保全活動	関連ページ	環境保全コスト		経済効果	主な環境保全効果 (環境保全活動をしなかった場合と比較した効果)
				投資額	費用額		
製造	KCPC ・京都工場 ・明石工場 ・コーヒー 焙煎工場	ばい煙処理	-	45	9	-	大気汚染の防止、法令遵守
		排水処理	41	30	306	-	水質汚濁の防止 (苛性ソーダ流出事故についてはP5参照)
		騒音・振動防止および悪臭防止	-	-	3	-	快適な生活環境の保持、法令遵守
		大型インバーターの導入による省エネルギー	43	-	6	8	電力消費削減量：1.035MWh CO <sub>2</sub> 排出削減量：436t-CO <sub>2</sub>
		水の節水利用、廃シロップの自社処理	37.41	-	118	85	水資源(上水と地下水)の節約量：291千m <sup>3</sup> 廃シロップ削減量：729t
		製造工程廃棄物のリサイクル・適正処理	37	-	233	6	廃棄物リサイクル量：18千t リサイクル率：100%
物流	KL・KBS・NSC	燃料の効率的利用	44	-	-	-	温暖化の抑制 大気汚染の防止
管理・営業	KCCB KBS KL NSC	eKOシステムの運用・維持	33	-	54	-	環境教育等によるEMS体制の整備 環境教育のべ時間：1,334時間
		廃棄物の適正処理	-	-	75	-	法令遵守
		排水処理等の公害防止 (KBSレックステクノ事業部：自動販売機整備業他)	-	-	3	-	水質汚濁の防止、法令遵守
お客様による消費	KCCB	省エネ型自動販売機の導入	43	-	-	-	自動販売機に関する電力消費量の削減
		廃自動販売機のリサイクル・適正処理、フロン回収破壊処理	38	-	15	2	フロン回収量：3,971kg
空容器回収	KCCB KBS	空容器の回収・リサイクル	34-36	-	390	19	空容器回収再資源化量：8,763t
		空容器のダミー缶リユース活動 (KBSレックステクノ事業部：自動販売機整備業他)	-	-	2	5	ダミー缶リユース数：176千個 同リユース重量換算：6t
ボトラー関連以外の事業	RXE RXL SCJ KDC C&C AKY	廃棄物の適正処理	-	-	6	0	法令遵守
		大気汚染防止・排水処理等の公害防止 (SCJ：自動車整備業)	-	-	2	-	大気汚染・水質汚濁の防止、法令遵守
社会的活動	グループ全体	環境広報	-	-	11	-	社内外の環境啓発
		地域(事業所周辺含む)の緑化・美化	39	-	18	-	美化活動のべ参加時間：3,325時間 (工場周辺清掃、ボランティアでのイベント参加含む)
		環境保全団体等への支援等	39	-	5	-	支援先団体の活動を通じた環境保全への貢献
その他	KCCB・KCPC	苛性ソーダ流出事故対応 (破損調査費、海洋調査費等)	5	-	9	-	事故の原因分析、環境影響の確認等
合計(単位：百万円)				75	1,266	125	

eKO活動による主な経費削減効果(対前年比による経費削減効果)	
<p><b>京都工場</b> 製造現場と廃棄物置場での分別の強化により、これまで廃棄物として処理委託していた廃プラスチックを有価物に転換し、廃棄物処理コストを削減</p> <p>1.6百万円 <span style="color:red">➡P37へ</span></p>	<p><b>明石工場</b> 回収冷却水量調節によるオーバーフローの回避や、抽出残渣掻き落とし用水のエアアによる代替により、用水使用の製造量原単位を対前年比0.11m<sup>3</sup>/k0削減</p> <p>4.3百万円 <span style="color:red">➡P41へ</span></p>
<p><b>関西ビバレッジサービス(株)RTS事業部</b> 積載物(メンテナンス用工具)の見直し等、エコドライブの推進により、ガソリン車の燃費を対前年比0.28km/ℓ改善</p> <p>1.2百万円 <span style="color:red">➡P44へ</span></p>	<p><b>本社・営業所およびボトラー関連グループ会社</b> こまめな消灯やクールビズによる空調適温設定の徹底等により、電力使用量を269MWh削減</p> <p>5.4百万円 <span style="color:red">➡P44へ</span></p>

環境情報算定基準

集計対象期間 | 2005年1月1日~2005年12月31日

集計範囲の会社名称と略称	KCCB:近畿コカ・コーラボトリング株式会社	<ボトラー関連グループ会社> KBS:関西ビバレッジサービス株式会社 NSC:株式会社ネスコ KCPC:近畿コカ・コーラプロダクツ株式会社 (明石工場・京都工場・焙煎工場) KL:関西ロジスティクス株式会社	<ボトラー関連以外のグループ会社> RXE:株式会社レックスエステート RXL:株式会社レックスリース SCJ:株式会社 セイコーコーポレートジャパン KDC:株式会社カディアック	C&C:株式会社シーアンドシー AKY:株式会社秋吉システムズ
--------------	------------------------	--	---	------------------------------------

環境パフォーマンス指標算定基準

指標の種類	単位	集計基準	掲載ページ
エネルギー使用量	TJ	購入電力量×単位投入熱量*1+各種燃料使用量×各種単位発熱量*2 *1:1.9.83MJ/kWh *2:各種燃料は資源エネルギー庁「エネルギー別標準発熱量表(平成14年2月)」による	45・46
エネルギー使用量原単位	GJ/kℓ	年間エネルギー使用量(GJ)÷年間製造量(kℓ)	45
水使用量	m <sup>3</sup>	上水・井戸水の使用量	41・45・46
水使用量原単位	m <sup>3</sup> /kℓ	年間工場用水使用量(m <sup>3</sup> )÷年間製造量(kℓ)	41
原料投入量	t	製品用水、お茶葉・コーヒーなどの投入量	45
廃棄物等排出量	t	産業廃棄物・一般廃棄物・有価物の排出量	37・45
廃棄物排出量原単位	t/kℓ	原単位=年間産業廃棄物排出量(t)÷年間製造量(kℓ)	37
再資源化率	%	再資源化*3された廃棄物等÷廃棄物等発生量×100(%) *3:再利用又は再生利用(熱回収含む)をいう	37・45
自動販売機電力消費量	kWh	各種飲料自動販売機の代表機種別の年間電力消費量×各種自動販売機台数	46
製造量	kℓ	清涼飲料の製造量	45
温室効果ガス排出量	t-CO <sub>2</sub>	CO <sub>2</sub> 排出量+CH <sub>4</sub> 排出量×温暖化係数(21)+N <sub>2</sub> O排出量×温暖化係数(310)	42~46
CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub>	購入電力量×CO <sub>2</sub> 排出係数*4+各種燃料使用量×各CO <sub>2</sub> 排出係数*5 *4:電気事業連合会発表の全電源平均排出係数を使用 2000-2003年までは各年度の排出係数を使用 2003年以降は計画策定時の係数(0.436kg-CO <sub>2</sub> /kWh)で固定 *5:各種燃料は環境省の「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン(試案ver1.6)」による 但し、都市ガスは2.28kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup> を使用	
CH <sub>4</sub> 排出量	t	車両走行距離×CH <sub>4</sub> 排出係数*6	
N <sub>2</sub> O排出量	t	車両走行距離×N <sub>2</sub> O排出係数*6 *6:CH <sub>4</sub> 排出係数(kg-CH <sub>4</sub> /km)及びN <sub>2</sub> O排出係数(kg-N <sub>2</sub> O/km)は、環境省「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン(試案ver1.6)」による	
NOx排出量	t	環境省「環境活動評価プログラム」による	45・46
排水量	m <sup>3</sup>	公共用水域・下水道への排出量	41・45
飲料自動販売機台数	台	缶・PET・びん・カップ用の自動販売機台数	46
自動販売機廃棄台数	台	飲料自動販売機+ティスベンサー+ショーケースの廃棄台数	38

注)化学物質について、「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」(通称PRTR法)に基づく届出対象量の化学物質の取扱いはありませんでした。  
参考ガイドライン:環境省「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」

環境会計指標算定基準

項目	内容	掲載ページ
集計原則	環境保全活動をしなかった場合と比較してのコスト及び効果(経済効果・環境保全効果)	47
費用額	減価償却費:環境保全関連設備の耐用年数や償却方法は財務会計と同一 人件費:環境保全活動時間に各会社の平均人件費単価を乗じて算出	
経済効果	環境保全活動に伴う収入額及び節減額	

参考ガイドライン:環境省「環境会計ガイドライン2005年版」。ただし、表示分類は、事業活動フローに基づいています。

eKO活動による経費削減効果の算定基準

項目	内容	掲載ページ
集計対象範囲と集計対象期間	環境会計と同一 集計単位は任意の部門ごと	47
集計原則	対前年比環境負荷削減量×単価 なお、製造部門においては製造量原単位の改善量から、車両部門においては燃費の改善量から削減効果を算出 例)製造部門:{(2004年水使用量原単位-2005年水使用量原単位)×2005年製造量×単価}	
単価	明石工場用水:165円/m <sup>3</sup> 、ガソリン:112円/ℓ、事務所電力:20円/kWh	

## 環境情報の第三者審査報告書

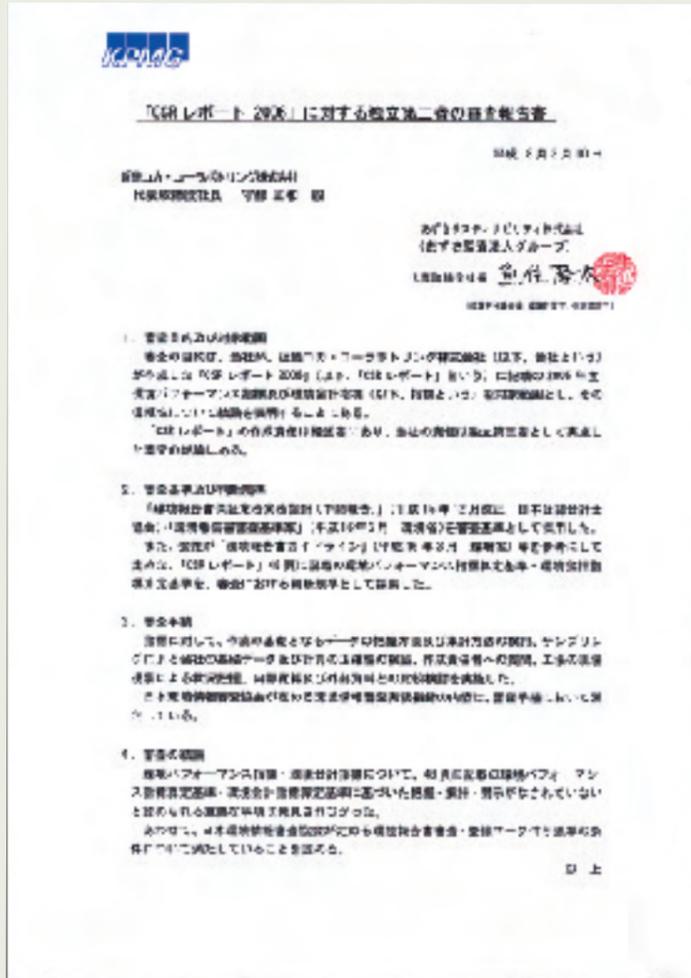
皆さまに信頼できる情報を提供するために

CSR経営は、ステークホルダーとのコミュニケーションを軸に発展していくべきものです。

そして有意義なコミュニケーションのためには、ステークホルダーに対して信頼性のある情報を提供することが前提になると考えています。

当社グループでは、環境情報について、あずさサスティナビリティ株式会社による第三者審査を継続して受審しています。

### 第三者審査報告書



当社による第三者審査の実施は、今回で3年目を迎えました。この間、近畿コカ・コーラボトリンググループのCSR・環境経営は、着実なステップアップを見せています。

ステークホルダーとの意見交換を目標数値等に反映させた前年の「温室効果ガス削減中長期計画」が社外からの要望を「受けとめる」ものであったとすれば、今回の「廃棄物3R推進計画」は、地域社会への環境教育や空容器分別に関する啓発活動などの社外への「働きかけ」を主眼とした内容となっており、「双方向コミュニケーション」を模索する姿勢を感じます。

今回から報告書タイトルを「CSRレポート」に改められました。行動規範の策定といったCSR推進の土台整備にとどまらず、災害対応型自動販売機の導入などの事業活動に直結した地域貢献策に着手し、成果を挙げている点を評価します。

一方、2005年9月18日の明石工場における苛性ソーダ流出事故の発生は誠に残念なことでした。地域の皆さまからの信頼回復のためにも、経営におけるCSRの重要性はますます高くなったといえるでしょう。これからも、近畿コカ・コーラボトリンググループが地域社会からますます必要とされる企業になっていけるよう、CSR・環境経営を迅速かつ確実に推進されることを願っています。

あずさサスティナビリティ株式会社  
取締役  
福島 隆史

## 会社概要

商号	近畿コカ・コーラボトリング株式会社
設立	1960年(昭和35年)9月
所在地	大阪府摂津市千里丘7丁目9番31号
資本金	109億円
決算期	12月31日
主要な事業	大阪府・京都府・兵庫県における、コカ・コーラ、アクエリアス、ジョージア、爽健美茶などの清涼飲料等の製造・販売
工場	明石、京都、コーヒー焙煎
支店	49(2006年1月1日現在)
従業員数	1,353人(出向者425名含む)(2005年12月31日現在)



## グループ会社

### 関西ビバレッジサービス株式会社

- 自動販売機のおペレーション
- 清涼飲料水の販売
- オフィスコーヒーサービス事業
- 各種自動販売機の修理

### 株式会社ネスコ

- 清涼飲料水の販売

### 近畿コカ・コーラプロダクツ株式会社

- 清涼飲料水の製造

### 関西ロジスティクス株式会社

- 清涼飲料水の運送事業

※株式会社レックスリースにつきましては、2005年12月に当社保有全株式をオックス自動車株式会社に譲渡しました。

### 株式会社レックスエステート

- 不動産の賃貸・売買・仲介および管理

### 株式会社カディアック

- 関西国際空港内での自動販売機による清涼飲料水等の販売

### 株式会社シーアンドシー

- 食品の販売、飲食店の経営

### 株式会社秋吉システムズ

- 焼き鳥のフランチャイズチェーン

### 株式会社セイコーコーポレートジャパン

- 車両の修理・整備

### コカ・コーラウエストジャパン株式会社との経営統合について

当社とコカ・コーラウエストジャパン株式会社(本社:福岡市)は、2006年7月1日(予定)をもって、共同持株会社「コカ・コーラウエストホールディングス株式会社」を発足させ、両社の経営を統合することといたしました。経営統合後も、地域社会の一員として信頼される企業でありつづけるよう、努めてまいります。今後ともご支援、ご愛顧を賜りますよう心からお願ひ申し上げます。



人と人をうるおす

Coca-Cola

**近畿 コカ・コーラボトリング 株式会社**

大阪府摂津市千里丘7丁目9番31号 〒566-8513

<http://www.kinki.ccbc.co.jp>

CSR本部 地域共生推進部

TEL.06-6330-2461 FAX.06-6368-2704

広報部 環境室

TEL.06-6330-2191 FAX.06-6368-2705

COCA-COLA、コカ・コーラ、GEORGIA、ジョージア、AQUARIUS、アクエリアス、爽健美茶、  
そうげんびちゃ、煌、ふあん はThe Coca-Cola Companyの商標です。

©The Coca-Cola Company



このパンフレットは地球環境保護のため古紙配合率100%再生紙を使用  
しています。インキは、石油資源の保護、大気汚染の原因となるVOC  
(揮発性有機化合物)の発生を減らすために、大豆インキを使っています。